



十論為辨

子道書

伊地知文庫
文庫20
348



文庫20
348



九字序異端
 虚無寂滅之
 教其高過於
 大學而無實
 論語子曰審
 武子邦有道
 則知邦無道
 則愚其知可
 及其愚不可
 及
 有用ハ今言ハ
 凡人ハ知ハ無
 用ハ分ハ外ハ
 誤ルベシ

虚といふは「一」字一言に就て其高過於
 大學をいふに孔子も合ふとして可^ク及其智^ヲ
 不可^ク及^ラ其愚^ニといふは「世」の事といはるるに
 其智ハ「一」字一言に就て其高過於
 虚の語やとて「世」の事といはるるに
 仰家といふは「世」の事といはるるに
 有用といふは「世」の事といはるるに
 一の道は名利の用ありて畢竟は金銀の所
 ありて世を治むるに用ありて世を治むるに
 の用ありて世を治むるに用ありて世を治むるに
 虚といふは「世」の事といはるるに

誤りといふは「一」字一言に就て其高過於
 虚の語やとて「世」の事といはるるに
 仰家といふは「世」の事といはるるに
 有用といふは「世」の事といはるるに
 一の道は名利の用ありて畢竟は金銀の所
 ありて世を治むるに用ありて世を治むるに
 の用ありて世を治むるに用ありて世を治むるに
 虚といふは「世」の事といはるるに

九字序異端

とてしと殿と不^レ平の二字とわらひしり論語の夫子
の助語ありて、これ等の文章の優劣と評せしむ
これと風雅の旨を裁しつむ返すもくもあはし
へきと論語は、ほむの世に風雅あはんきとて、子游
し牛刀の風諭のこまき、子路は、飽飢の誦語の
こまき、牛のちり、こまき、飽飢のちり、こまき、文章の風雅
いふあり、あり、論語は、伯文の教訓状あるは、
曾子より子思、子思より子思、子思より子思、
孫より孔子のちり、こまき、とて、先よ、風雅の中も、
能く、孔子の学を、
論語一部と鑑とて、才一は、世代の和節とて、
「知^テ和^ラ而^シ和^ス不^レ以^テ礼^ヲ節^セ之^ヲ亦^レ不^レ可^レ行^ク」才二
いふ、代の温厲とて、一即^ス之^也温^カ聽^ク其^言也

属^ス、和節と温厲と、記諫の培林とて、記諫
の潜就旨の本懐あり、ちり、潜就旨の才一の言、
論語の才一の用とあり、今日の言、語、論、語、あり、
「言、徳、人、向、の、文、飾、あり、ちり、と、儒、学、の、理、
の、け、け、下、学、上、達、の、論、語、と、失、つ、い、れ、子、の、詞、の、
表、重、表、と、ちり、教、誡、の、文、と、表、し、こ、ま、き、文、章、
の、重、と、重、し、こ、ま、き、ちり、ちり、や、漢、や、孔、の、十、折、目、り
七十一才の学を、孔子の虚言とて、よく、ちり、
孔子の権重とて、よく、ちり、
「瞻、前、か、後、の、語、と、は、く
と、り、類、回、ひ、り、り、よ、こ、ま、き、
「回、也、虚、言、と、も、虚、言、の、二、用、と、ちり、
「何、の、の、
「是、は、さ、ら、や、言、語、の、強、し、き、り、り、り、
幾、言、と、て

論語

五

孔子のまゝいや何しもの言へば解空の稱名
い何家の才子あるんやけり万代の遺蹟とて
一社の虚言とて去れいやけりなよと死とすてら
おね不覺の哀慟とて天喪吊なくと後死者
不與於斯文とて斯文のめあきして何し
のめあきんその顔回とて能信而不能及の虚言
の油引と氣はくひてやせきといふ曾子といふ子思と
といふ孟子も孔子の文と傳へて教誡の理傳はる
るめあれとも文書の虚と傳へるや對向かりと
けりなよとけりや舞の後井負文のめあき孔子の
西漢の似而非ちる自有といふむじやして末くの後者
達しる虚言のめあきん及んばとて論語の

誣イハリ
調戲セ
ヤハラク
ヤハラク
ヤハラク

興廢とておに一堅一虚とて一偏一全と
ちきや文教の先後と失つては北宋の二程
とて一子一孫の子孫の漢魏の比に傳はるる
とて北宋の世の傳はるるむじやしてけり釋家の
虚活より例し誣諧の詞とけりや傳者の實面
と若くは孔子も論語もとて道徳の
版とてとけりや虚言とけりや漢儒説
皆非也とてかりとも權変時宜の比とてきりや
けり傳者二家似是非とも傳者之言以之楊墨王
を為近理學者有當如臨声反色以遠之とて
けりおちり剛らとて例の文章と後して教誡
とて先しけりやけりや勸善懲惡とて徳をかりも

仰書し儒書の是し似る者あり儒るも仰るの
_記しちうまひ下あり仰る推化といひし推遷
といひか葉上微笑の密附ある曾安より一以の
秘傳あり端木の辨舌と目連の神通よりほり
言偃より子文も所難の詭法より乃至須菩提の
戒行も函子奪の法りも論をせ優劣もかく
論語の教も標嚴の誠も不明も其の深義あり
て仰るのまゝ細とともるやあるや其の深義あり
と孔子の詞と杜ははきき程子のそと地と仰るに
いれむとやははきき二程のふよりわく虚妄の用
とありやまゝありあはれはきき程子のそと地と仰るに
_記し安の一字ある麻とおあることとんちちる

へきと我朝の安あらん中ちや儒はくはのれ美
あり孔子の威儀ありや仰るの深義ありはきき
_記し安の一字ある麻とおあることとんちちる
とや早竟とやきく虚妄の是ちらひやきき
_記し安の一字ある麻とおあることとんちちる
い世代の用とやきく四民とやきき五倫とやきき
_記し安の一字ある麻とおあることとんちちる
あり今この儒はくは安字よりあら入て世代の安とや
ききやきくありや可風雅の記を達る孔子の虚妄
とまゝなる安に今の危家い世界となげるとして虚
_記し安の一字ある麻とおあることとんちちる
_記し安の一字ある麻とおあることとんちちる
_記し安の一字ある麻とおあることとんちちる

とらうくまらうく之道の非とあつておはせれと書き賢
の論くまらうくがより我内の能諧師の儒くも仰りし
るれらりらり釈迦孔子の非と云ふて言諧の遠近
と遊りむとせれは愚同八目の喩うてききし言諧
賢典とふとも在凡と卑下の詞と云くもあつて
の助言とふも云らむと云くは老玄の子歳と云くは
一の日の儒も仰るもけし十論と書き罷りて能諧
に遊りて例し我物の文と云くは列辰ある仰のそく
能諧の鄙蕪云く歌の連なりゆらと上とおく虚と云く
言ひし言諧のそくは酒のあましと我好の塩梅とて釈加
孔子の言諧と云くはへうりて能諧のそくは言諧のそく
ありし十論とせれのそく用と云くは

十論の辨お 始

序改

渡部 和 編

茶話禪 其書と能諧の録也祖為のつて武江
の仰頂和為と云くは一投子一碗の茶は話則と
すし能諧のそくは悦のそくは悦のそくは悦のそく
虚妄の身と云くは悦のそくは悦のそくは悦のそく
と遍照と云くは悦のそくは悦のそくは悦のそく
のむ辞ありらるくは悦のそくは悦のそくは悦のそく
能諧のそくの様變と云くは悦のそくは悦のそくは悦のそく
又教 其一對し十論の凡例あり悦の論語の述而
と效めし十論と云くは悦のそくは悦のそくは悦のそく

る序あり

一字も論者の作とせしむる教へ維たの向疾
擬ふる我らの字をあらわし論のむすの
誹諧の名近とせしむる滑稽に諷諫の事懐と
あつたりしを輕にせしむるやんをたれり
片敷と辟邪とせしむるやんを文教の先後と
しげく儒術のさじ地とせしむるやんを例の誹諧
の微中なりしを季曲と文綱の辨しるるやんを
夏が冬扇 此の字を解する方めありて或人の
後即し王亮論衡云作無益之能納無補
説猶如以夏進以冬扇 亦徒耳
矯人 是子孫序の矯也 憤俗とせしむるやんを教
人とあきくぬるをたれしむるやんを字文とせしむる

此語と例の後又より五偏の諷諫とせしむるやんを
夏と冬扇とせしむるやんを字文とせしむる
梓行沙汰 此段と十論の対面ありけりしは論の
板行の祖存の減むることありて此段の対を
はむるやんを減の減むることありて此段の対を
けりしは祖存の専攻と信とる此語の對は言ふ
しつりて世はのけりしとあるやんを貞享式の沙汰
い中一版とありけりしは式の新旧とせんやんを
過當 邊行師説し過當の三字は是等の語あり
きしつて天道の寂然不動とありしやんを大道廢有
仁美とせしむるやんを大道動とせしむるやんを
けりし詞の對の胸とせしむるやんを物の本廢と一時

あれは主眼の的面とせしむるなり儒者の孔子と
せしむる言詔の多と少のりより噴吐し
と失ふるの言の下の詞よりやれは言の
急緩のさるるなり勸懲の用ありて
詞といふはさるるも勸懲の用ありて
人ともさるるなり為恩の心とに美の端とい
る家の字の格と人ともさるるに美の衝と
道徳の言とよりせしむるに文章のさるる
連綿の差ふるなり言の決の詞とい
急詞もさるるの用あれは緩詞もさるるの用あり
儒者の言のさるるなり言の決の詞とい
とあるなりと論一部なりとあるなり

才一段

天道賛 史記滑稽傳 孔子曰六執之於治一也
礼以節人樂以發和書以道事詩以達意
易以神和春秋以道義太史公贊曰天道
恢々豈不大哉談言微中亦可以解紛
秦優旃賛曰善為笑言然合大道楚優孟
賛曰常以談笑諷諫云々
談笑諷諫 白馬教誡訓 史記を諷諫の二子
といふは詔の賛といふは言のさるるなり
いさか文とあはれ友達とやうけむに笑ふ
る一面といふなり人の言とあはれさるるなり

るはあはれ

りやとちきうとくけふ人よ遠くはけし人
ふかこやきくちると虚ふかあさひを様婦
とさうして凡諫といふ綿の中に森るあか
めさるにけり人ともかきとせられと漸く修学し
ついで我とやむめりてやういあやうをさう
割膝の目見よりも酒色の中にまぐらとて
ある付をなれりも馬也へはねれ子の互疑の
諫も属辞比事春秋教也といふ今く今うふ
諫諫しきくも書し知我しといふ罪我しといふ
勸懲の遠きとあやうへり或は子路とて
さうと詩之諫書之を講是丘之過也といふ
これより一詩を連他といふも諫諫のあり

諫諫のたよりと諫笑あるは諫笑し和の節の憂
あつととさうへり諫笑も小悪の人あつ信仰
し信んじたりとへり大悪の人あつ今うふ能諧
の諫諫あつととさうと悪の事あつととさうと
れ夫子の五美中にも諫諫とあつととさうと世にの一道
と建をさうとと七十余国とあつととさうと文徳もさ
もあつととさうととさうととさうととさうととさうと
兵非斯人之徒而誰與とさうととさうととさうととさうと
とさうととさうととさうととさうととさうととさうととさうと
一對しとさうととさうととさうととさうととさうととさうととさうと

滑稽 史記評林崔浩云滑稽者骨統言流滴也
轉注吐酒終日不已言出口成章詞不辱身錫云

辨云史記上滑稽旨の贊いあふみちりにいそん
慮々の之後しんらん式にいたる談笑の諷諫上
くくくさくく凡の世情の和説よあそい司馬遷の
諧語滑稽よりそあや或とく智計疾出
或と敏捷の姿に達さくもさかへ司馬遷の
微中解紛の四字より俳諧と遠く太史公の
勸破さくわく賛詞と近く東蒼坊の況破
きくわくしんか

俳諧 史記素隱姚察云滑稽旨猶俳諧入辨云
俳諧の二字は漢書にもありてかくのこく方め
ちりと古今集にもハヤおる俳諧の二字と
品題とあそくと別俳諧の二はありて他家

の俳諧とく各ふのばたちりもやけ頃の式月抄
る俳諧も俳の音ありとやきくひありと行な
る史記の抄文と戻くへきをねく人の鹿馬
とありて字威の字者くふへくむまに言篇
と人の篇の抄文に十論一部の文口訣とある一
は松子庵の遺稿後話と俳諧の二字と淨も
とく史記の諷林の褒貶ありやめ後話の略文
しんかへ滑稽旨傳に九段ありて二段は司馬遷の
本書あり六段は指少孫の附録ありとく金丁と
俳諧の諷諫とありとるに或は主賛とせしめ
淨あり列辰云滑稽旨者全鄙藝云乃直
從の藝云在詔来此即太史公滑稽旨也史記

禹湯文武

遺行一之祿存の件福よく禹湯文武は
 伴うりてとつ下に周公とや連なりし解し孔子は
 他諸の訛諫とちちの之とつ下孔子の書入あり
 毛氏ありあきく何りて祖存の字は削ありと毛氏の
 係ちあり或ちとけりされらるるははるの極と
 せしむるをいけ二句の十論の大綱あるに例の
 過當ともくうり流るやはるるの辨の後節と
 あきらむるは未詳めおと後君のほとちらて
 例の遺行よとちまて

詩

一貫抄の孔孟論一儒仰の建立と解る
 して仰家禪法の異端とせちて一虚之天の二代
 の自在ちりと祿とて一論の大略一阮世一志用の

儒法とちちとて未来一推尊の仰ると信とる
 へ滅ぬ一人の説とらして孔子と論語の
 尤二の論一正とて一とら一権とてとち同向異
 答の虚々自在ある長沮桀溺と季懷とと
 何て異端とて攻めりてとるると曾子有子より
 かくけてそのちちと孟子の記論一はのり何て
 朱程の末の世とてかへり権者のば成あれは
 せれと孔子の遺書一あはして家語と孔猛とは
 言あり史記と司馬遷と誤あり西赤の聖人の
 老子のよりとちら異端と攻めりて王師の專治と
 ちらとのれくち教言に流して孔子のたいてい言
 も世くと世界の人の氣のほゆるやりに論語一部

と祢り分ちて兵刑揚墨を以てしんを以てしん
一好する人ありて愛と信とて子孫子と愛と
その虚と信とくくもあつて言語の即分と
はとて舞と鼓司使と負とてハ飢饉の年の新
を食ふ所て一方の存とてんぬれも下民の振を
圖あつてもやこれの海濱う天下のあつて親と此
きみとておあんなれつて論語一宰我とせとて
井仁の之をいもあつてとてかや好するの人と
とてんや這奴うたくり言とてとてさる子孫子の
公孫丑とていひて 知言の自讃とてなり 釈迦
いと子孫をさるる念抑誦抑の言と説のくを
維士の達士ののと 禪法とてかやとてとて不淨

のひぢありて例の虚とていふとてとて
釈迦と異端とてとてちのなりとてとて軍法の
謀とてとて敵とて味方とてとて合点とてとてこれ
の人くくを喜むとての言とてとてとてとて
とてとて論語とてこれとて論語と和即の女用
とてとて和つていひつれとて即といふとてとて論語
とてとて論語とてとてとてとてとてとてとて
言の虚とてとてとてとてとてとてとてとて
我々の言とてとてとてとてとてとてとてとて
の花言とてとてとてとてとてとてとてとて
て酒盛の拍子に言とてとてとてとてとてとて
秘けりて媒の一字にけ一對とあるべし

るまか上

猿

田彦

神代卷先驅者還白有一神居天

八達之衢其鼻長七咫北日長七尋眼如

八咫鏡而赫然似赤酸樽而云按之則天

兒屋猿臣天鈿女等と皇孫のほ保として

猿田の次女のおういとひ鈿女に情のほけさと

つる尋竟に弱とより強に弱とつる此語の家

の訓諫をねらふより凡雅の俳優と云れは此

凡雅俳優

齊部宿禰廣成古語拾遺八天照

太神赫怒入于天石虎屈八十万神於石虎屈

前平庭燎巧作俳優相與歌舞云按

とるに俳優の二字は漢書より俳諧雜戯也

とるる云れは宗廟の太神も俳諧の決り

同せざるべからざる大和の凡雅と云れは齊部

の詞と詠文より俳優と神樂のちあは

しつるやうに神はあはる凡雅と和芝の才一

ふれはれといふおとよ人向の式もこれに

八雲 素戔無耳高才の内言に八雲のちや

かきくはちよまに等地はるそのちの地と王仁

歌仙の帝と祀いなりや歌仙のちのちやけ

みとるりやうとちやけのちやけのちやけ

の帝に戯れなりや海客のちのちのちの

おのあさくら人とちよ地うとちよ地うと

はちと集の序詞と云れは不意のちのちの

るまか

七

以後章の虚妄と云う又章の起結と辨定一
法式新四梅よりたけ一段の言の論と云ふ論は
あつて新四の表れと云うては式の差ふよ口傳
ありと云ふ今く皮裏の陽秋をいひしと云ふ
今の十論と世の機嫌と云うて例に即縁の時
あつて貞享式と撰と云ふもやこれい辨定
の一方よりして聴者無妄則道不入と云ふ
のり系譜と伯常の辨を片のや式の新四
いふに実より云ふ也

檀林額 江戸八百韻に云ふ中々檀林の本
何れ梅の花と云ふ宗因の各句より檀林の名は
世にゆくと云ふ或と判踏はしむいと云ふ

ぬこ介より或は花とぬむと云うるや
さきの所より云ふおやはれん貞徳より宗因の
比中々と所合と云ふ梅と云うるや
全く連文にかりぬい一句くは誹言の論あり
殊に宗因と各句も所句も皆く詞の根子
のこりて意より云ふも云ふはれと辨に
とも檀林を辨ともついでに風雅の云と云ふ
おれと云ふと云ふに云ふは祖系の遺訓
ふん今より五十年の昔と云うる能浩の上
しる人しと云ふはの子細を當時の云の款に
達しといふと云ふも孫り誹執を云と云
語の理處と云ふと云ふは文意の意記と

る大由上

論まらざるの世の小事淨るなめとまらぬ相成の比の
誠とありたり言に不振の持論とありたり
と我に在りしと百世の授託して孔子も其の成り非
ありたりと深くあてこぼれり

唐虞先 此に子と父の子對と辨と一と言に
てんたのそとをといつて義裁農のそとと一と
とてとありたり太極中極とぬくや唐虞
の固より齊同楚と對一なり剛の意と破り
とも次々とありたりとる文章の比と信を
論一才論の文此書終りるまをいふに剛と云ふ
非諱不知 按とるに此二句は傳の西文より
二文論者と看做せざるべし二句の差はよはよ

一とてよく八言 眞後より公任も持信とは自辨
のふめありありとて法式ともありとて
右人とりとるるもいふれんそ人連なり
はくろく言篇の非諱いふる論をとり
人篇の非諱あり史記より姚察の此文を
て凡辨も法式も皆くふめありたり
當のさ地よりてたといふ知れも
と諱林より諧語滑稽といふ文取らるる
自在ととりけ類と洛の双林寺に假名の碑銘
ありたりと十句に七字の謎文あり謎の解方
は内陣の秘軸とるる一但石碑と謎文の
と漢家の比はよありたり

さいのいひかん十九の年に官とありてまた洛陽
 一季とて師と武陵一其角虎雪と人
 とさう師川の古芭蕉庵一隱道ありて
 の年ありてけし評し埋木下の四書へ難問の
 遺抄一配介あり才二般の老後の下一
 天章一道 じうしう儒師の大道も新る過志
 の七師と師と孔子へ現在一七人の師あり過視
 へとさうに唐文の企ある況や孔子の唐と文
 一々多に周ととさうの師と若くは然
 の他受用よりも百世よ王道の大からくあり
 され一道の祖とちりくと智はの師とゆき
 され燃灯師の授記ありといは元朝と表す

比とさうるもをとると家くの師人ありけり
 今の他諸もをとると左極の文と師ありけり
 い史記と沙文とて言偏と人偏とい志と新
 師の式とをとる強の一字と十論と勘破
 夙雅と私 得とらんに結語の信の一字とと
 ぬくらりし十論と可し記と古人とりとて師家
 とを述ぶとるいは儒師の師説と
 好惡の例の五つくてけいあり自ら室の二立年の
 古風しらとるの師文とやさは新師の差
 ぶと信ととる信の一字の大騷りるとる
 貞孝の式の用ととる家ととる一とふとや道の人
 ありし辯者の眼と着へととる

天理ヲ以テ樂ハ道 躰ニ天理ミシタカウト云ハ道ノ用ニ

ついでに馬のふとやうな物もあつたといふ
こゝにあらうといふも雅俗のさういふ人
の心ださういふさういふをいふ俗家の心
ありあつたのの野のたさういふさういふ
雅俗のさういふやうのとさういふもあつた
それと巧言令色といひて文士とけい力味といひ
武士とけい身時といふ具れり手家地徳と教政
の奇の氣とけいして武士の徳とけいし和奇の
怒持とさういふのもあつた仁者必有勇といふ
文武のさういふもあつたといふも子行者の方の家
もさういふさういふ雅俗と文章のたういふ文者
貫道之器ちりとせし能潜とせしお人の我りし

文章の自慢ちりしと舞に之のの塩梅とさういふ
酢とさういふたれいしとあつた和節といふ所の酢梅と
やういふさういふ例のちういふさういふさういふ
例の文とさういふと論語の和節と例のついでに匡人
とあつた例のちういふさういふ子路とあつた存の
ちういふさういふ例の対向といふ所の優游といひて
さういふさういふ夫子の訓誥といふんやさういふ論語の
能潜ちりとさういふ近く能潜の論語ちりとさういふ
史記と劉董の二子さういふさういふさういふ能潜と
おんといふさういふ能潜とせしおんといふさういふ
さういふ能潜とさういふ人と能潜のさういふさういふ
さういふ能潜とさういふ人と能潜のさういふさういふ
さういふ能潜とさういふ人と能潜のさういふさういふ

世詞の過當よりて代々の家道もけいへる一それ
いひゆく我行よままの人ありて世詞と百世に
傳へんよとくに家訓の密語あるを我はけらく
故年の歎息とあらに孔子の言傳の釣詠あれ
ややうくそ傳ふも詞とせりて湖海も武江
よはうそくそ時の世傳よりもあつたきよめ
ちり其角も例のあつていふ他人の向性のあつて
も自己の世傳の暗ふんよと世詞の傳はれりて
やうきしゆく言傳の素表とよそめ所家のいふ
きよき地あるをやとれりも雅俗の遺傳とあつて
我はけり以彼の罪人とありて古今の言傳よと歎と
へるよの人の斯文よあつていふこころ遺傳の報恩

あつていふ世傳の素表に
世傳之詩歌 按るんといふ字はけり十論の
卷のつとむ一むいりける言傳の四家
四行とせりて詩よ言傳の風格あれは詩の
洒落ありて世傳之連言も連言之世傳も
よよまきよやちり傳仰も連言ありて教行
よの教者禪者といひれりて西人君子よ
其れと論語よゆめして其智可及且其愚
可及も過猶知不及と孔子の言あり
法よ頓漸のあつていひせむは輔のたがも
在今は集れりて其都もあつていひせむは
世傳の所ありていひよ世傳よと孔子の言あり

子貢問師與商也孰賢子曰師也過商也不過曰然師愈
與子曰過尚不及 草出為声成文為音音口鼻為韻

子貢問師

七

の事詠ちりともして他詠之詠さるる事
 誠と宗祇宗長より兼載紹巴の建事として
 も目よあはれしにほくして凡も入るる所
 へ例の事詠より一詠詠あはれし事二年に於て
 二事い喜しと云ふれどさきい思非も地ぬり
 中ぬりしと云ふことわねしと今之詠詠
 こと中ぬりしと云ふ柄とわねし比の句言ふ事
 せんぬりしと云ふ事とや耻しき事との
 名中よりして端よりと人の面皮ちりしや
 の不遠波 助辞要序云助字者詞意後而可
 知物之差別と云ふと云ふ言詠と音韻の二
 憎愛もその年もあるべし急録のあつた

して雅俗へ韻のひきまことあり今按さるるに
 西行のそにひい人々花さきあやとさるるあはれ
 いささか平らと云ふてとりけしそいなく俗詠
 あつたにいささか平らと云ふの雅言とけしと云ふ
 ののそと云ふと云ふと云ふ俗中の雅と云ふは
 して西行の一代一首の撰おといふと云ふは
 詞とかさうと云ふと云ふ詠詠あはれ富士のそに
 凡よあはれくしありの作さるる事たり杜子貞
 へ能字の妙と云ふ 春水鏡深も野航恬受
 と云ふ句と云ふも 縹緲浪蒼と云ふ皇代
 と云ふ月浦と云ふこれの物詠の句と云ふに
 ありて語不敬人死不休と云ふも凡雅の

西行のそにひい

精神とさあむむ一とさういふ詩より助詔の優
 一とて感仰とさあむむの哀怨とさあむむ一誠一
 二老と虚妄の自在より例のたうく例のさ
 くある時とれとさあむむとさあむむ一あるおの
 ひとらもさあむむ一それと凡雅の優遊より一
 哀怨も詭諫もさあむむ一

名人場 遺稿後話一西りの富まのより一強河ちりの
 可く用と詭諫一とそれと名人の場とさあむむ一
 あいくの有用と連言より一とさあむむのたう
 いとさあむむ一少人婦女の連詔と功志のいさ
 やさき所謂とおのけ一はらと名人とゆゑ
 おのけ林麻一とさあむむ一とさあむむ一の有用と可く用

と例一と言詔の虚さありとさあむむ一

十知大 十知の二とと論詔、公治長よりゆて

先後おのけ詔ありとおのけの越より

○ 子謂子貢曰女與回也孰愈對曰賜也何敢望王回也聞一以知十賜也聞一以知二子曰弗如也吾與女弗如也

今按此章者懲子貢之方人之惡也所謂宣給
 吾副不及向不察夫子之虚實耶彼斯責方
 人之向而可知不暇之對也於然諸抄尔者
 以與字令註許可之美止乎此與者同也
 其也或詭尔者點吾與女弗如而所謂爾者

乃終お上

廿

子貢一詞也了其在有者温而勸善也則其言
我子貢一時者厲而懲惡也子論語者知世等
之機変而知其時之七十二弟子則可知其
日之孔子言矣然其聞而所知者上智者聞一
而知二了則十麼可知万麼可知從本万法之一
理也則也下愚者聞一而知一了則百者黑木
路者自止争知時宜之变矣爾有別論語
之二與十者將直子貢之方人之弊迎知意
立八段之違而令威子貢止者必定也
儒
仰内證 将よりんけい章より論論者の辞美
あんなはらぐるの奥廢とよかに釈如来の道と
阿難はらるり孔夫子のんると孟子はらるり

唐も天竺もこれにむけい我おもをれと傳
て吾は法を子の仰け王代より非んをい仰え
とよは然上人の念佛をいと信蓮お手いひろ
かりて信蓮お手にとれんをいをのち
親善も日蓮も道とて師の信におねいけと
その弟子はとひろかりて隱之の道と本庵
いひぬらるる阿難とよひて好色の浮ん
あれん本庵と紙子よみ裏の外ありけり
富貴の人とより王侯の家とありて茶の
湯のあつ酒盛のゆへも和もはといわれ
へかろととて一母の抱ありけり一入の
建とと他内一敵とて我宗とがやれ火難

阿難はらるり

頓漸教
率嚴玄談四日隨延法師立頓漸之教謂
約漸悟機大由小起所設具有三乘故
名之為漸若約頓接直性於大不由於小
名之為頓 上又天台化儀四教初二也

憲問
子貢方人 子曰賜也賢乎
哉文我則不暇

水災の妻ある者ありた詔しも才子と仰の
中法と減さくし。拙る天皇の次弟あり
とまろく。今子眞存と稱すの性面也

頓

漸 四教後、頓漸秘密不定の法は、仰の
の上北次弟ありと我儒書に温厲の二は、
一、我と仰の法、今、ありんば、賢と善
薩と、儒^{ニヨリ}下や、うあは、悲の元ま、あ、き
や、うあ、し、之品のす、めと、お、さ、り、我、才、十、段
の判者の下、に、見、さ、る、一

蒼冥自在 昨説、蒼冥と、虚冥と、は、れ、
の障あり、教誡と、虚冥と、し、文章と、花冥
と、な、れ、と、拙、論、と、れ、意、は、く、と、虚冥と、

い、こ、い、あ、つ、ふ、と、蒼冥と、い、ひ、さ、ら、い、と、ま、り、あ、り、
い、古、人、も、あ、ら、う、あ、ら、い、と、我、さ、ら、と、才、空、殿、の、こ、冥、
の、辨、り、見、合、さ、る、一、今、や、和、漢、の、註、人、も、き、し、測、り、
人、廢、と、し、つ、と、儒、仰、し、羨、人、の、虚、冥、と、い、つ、
は、り、に、蒼、冥、の、元、祖、ら、ん、と、ま、れ、と、や、先、十、論、
の、者、ゆ、う、う、お、に、杜、陵、と、西、り、と、と、ま、り、人、
と、え、祖、の、差、ふ、と、も、ま、り、一

我身功

獅子庵の遺稿、之性、圍、し、子、地、箇、相
の中に、之人の像あり、毎々、互、を、并、の、許、り、
賢、と、先、師、の、筆、あり、今、の、之、類、圖、の、類、也

稲妻しゆ、あ、り、
あ、は、あ、ち、う、て、ほ、み、
傳、文、44

人廢のヲ歌ノ元祖ト云フハ勿論、陶明詩ノ
元祖ト云クハ杜詩ニモ此意陶潛解五石生
後汝期此詩ニモ見ユ

此の月北河より早く早かてん 東花坊
按るにけしきとと老のや性といふるありん
減し祖翁のや性といふ中し例の智徳を以て
の處の人と有破されへ内電の垂るもねとあり
なりてこれに温厲の二おともある一はむ竹と
なりてや依のるやうてはよあるいふとあり
能説し人の好悪かかきもやとさくて目と
とよりけりて東花坊と所命とされりて難波の
遺状といふりて古今の誹諧のふと説破して
天下の舌を坐断とせしめて道と建てる事
はふれいもとれけりて識文よりて言に祖翁
の陰徳とされしや

仰頂和尚 け和尚の在りて天和貞享の比あり
播磨の盤珪禪師といひに仰頂和尚と
して天下の龍虎の名を識ありけり凡雅を
新のりて武城の深川と禪刹ありて
芭蕉庵とされしや

是後樂 遺稿の五秘と難波の遺状と通あり
へ聖賢二教あり横折一教の遺物の言あり
しるを減はてし年々とて定むる秘と
されりてけりて老の事といふる金言の妙教
るよ祖翁の叮嚀あり其言也善く人と遺言
の教と傳ふりて百世の記念とされしや

泰伯 曾子曰鳥之將死其鳴也哀人之將死其言也善

一 杖曰一尸の永しつ孝子と死ねとも難言われ
 ちりあふくお果の味とくし中世の味
 一 沐風新の知をたぬとよとて
 一 浮子一尸の永しつ孝子と死ねとも難言われ
 一 西室おまおんお果の味とくし中世の味
 一 不道ちりあふくお果の味とくし中世の味
 一 子一沐風新の知をたぬとよとて
 一 崑崙と岩とくし中世の味とくし中世の味
 一 花ねの草おんお果の味とくし中世の味
 一 一尸の永しつ孝子と死ねとも難言われ

え禄七年十月日

えを以判

一 一尸の永しつ孝子と死ねとも難言われ
 一 沐風新の知をたぬとよとて
 一 浮子一尸の永しつ孝子と死ねとも難言われ
 一 西室おまおんお果の味とくし中世の味
 一 不道ちりあふくお果の味とくし中世の味
 一 子一沐風新の知をたぬとよとて
 一 崑崙と岩とくし中世の味とくし中世の味
 一 花ねの草おんお果の味とくし中世の味
 一 一尸の永しつ孝子と死ねとも難言われ

え禄七年十月日

一 支考はなふ。御殿の親切とあふふし
 一 ぬのしるふとくし中世の味とくし中世の味

えを以判

何事と終ちりたりと親も足りも向ふは乃て
尤よることあり我と定悟を一とそれと孔子も自立
とて自己とそれとの教もあられけ段は是の
の教美らと固其名ぬ六の遊はかんとするまゝの
純然とやあつて我とさとしを争はらうて純然と
うやむともそのあよとあつた人あつたこれらに
老のの用もさつて遠世の親切と感も一
人間遊所 梓とらに世語を例の如くして古風
老人の如く居とけしとくあるやそととい論語は富而
可求也雖執鞭之士吾亦為之如不可求從
吾所好とつては世語を諛諛の人と見ては時
の稽詢ありしとやく言詠の表裏とあつた

孔子の吾好は遊つむと意のわも多に人間の如く
とつるもあつた今にけ詞は利とれまゝぬ今に
け詞は害とれん世語のさ地はこれの端的
字もわくと油ひとやうとくあ也

傳曰

神曲辰黃帝 梓とらにけ一對はふも猿田鈿女の
子格ありて次は枝のけとつる也神曲辰も例の
木もつたとてあつて石州とあつたもつたに
黃帝と常衣に衣冠とさうして殿あつたの理論
もそはとれくとつるも圖と塵の仲文と一
六義 六美と詩經の註ありて以て軍向の讀とい
雅は朝廷のいとい頌と君王の法とい以雅頌と

經と新賦比興と經と多きものに種之差あるは後抄
しゆもさうりに我家の上美とてあらんは二處也雅
らるる也頌と万物の讚ありて文の塵とて能讀の
はねも賦と眼ぶの姿をせられは比と體とを
さしよ一箇とえさるて體と興とをさるる喟の有無
うして自他と獅の差あるとさる一とさるる自專の
略文として詩家とて塵とてのほはあらんは體の二字
とに傳くこととる也

没滋味 梅をりにけ向答と全く記すの叙めて
上もさるる中なりてを記とてさるる下もさるる
もさるるにさるるさるる。才七修り地のおもさるる
し能讀の詔とてさるるにけ汁や須たりありとの帆

ふりあはるるさるるにけさるる中も標の本枝と所り
しるる大おのれとけさるるさるるさるるさるる
さるるにけさるるにけさるる作をさるるさるる
投子と辞とけさるる茶碗の中し世界ありと
人とさるる言詔の事ちりん今の榮頭もさるる
負てさるるさるる人の身言とあやうさるる人
たれとてさるるの力味とて禪家の人のさるる詞也
中刀 梅をりにけさるるにけさるる禪録の常法とて
さるるとあつるさるる抑揚ありとこれと儒のさるる
い事と和中の節とてさるる或と温中の腐とてさるる
言中の評もさるるさるるさるるさるる言詔の
表をさるるさるるさるる

宗家詔知仁勇三有也 敏捷詩千首 仁先ニスレハ必勇アリ勇
杜詩敏捷詩千首 仁先ニスレハ必勇アリ勇
ヲ先云ハ必仁アリスカリ先後ヲ詔クハ知也

乃集の上

九七

才之改

白馬の徳 接するに白馬の之徳をよむ智は勇は三者
天下之達徳也と云る孔子の詞よりつてこれとけは
のけしやと云ふもさういふらりと世論より再行して智
い敏捷の姿とりいふも仁を説笑の和とついで勇は
頭挫の言と云る所は仁は勇より一歩のやういふので
論語にもけ二の証あり仁者能好人能悪人とい者
必有勇力勇力有未必仁ともその能好といふ仁より
その能悪といふ勇は仁に在りやあるは勇と云は
えれは勇を仁と云はさういふ論は仁の後の証より
これと云ふも智ある一は仁よりこれより子路

武勇といふも一は仁より一は勇の二を言ふ
文道は智の二を言ふ一は仁の論語の二より
一王道と論は仁と云る仁の文章と云う一は仁
周の徳者と宣の仁に周の至徳と云ふも仁
と云ふも仁と云ふも仁の仁と云ふも仁
十人とも仁と云ふも仁の仁と云ふも仁
乱臣のつ子と云ふも仁の仁と云ふも仁
乱は仁と云ふも仁の仁と云ふも仁
仁は仁の奸賊といふも仁の仁と云ふも仁
と云ふも仁の仁と云ふも仁の仁と云ふも仁
あり難と云ふも仁の仁と云ふも仁の仁と云ふも仁
何れも仁の仁と云ふも仁の仁と云ふも仁の仁と云ふも仁

論語

仁

論語一部の結文より「不知言無知人也」と言
凡雅の文章より「文」と言ふの字はとすべく
言々言中の表裏とありて「孟子もたれ」と
る所より「我知言」とや「言」と言ふは「病」の
表裏より「早」竟ると言語のいふまじりて「病」
裏とありて「あり」といふは「言語の深き」とい
ぬれども「意」と「意」少く報く「子の志」とあり
て「表」とも「意」ともいひて「婦」の「婦」とも
志をいふ言の表裏といふを「吾人」に「信」今
両用して「愚人」と「耳」に「中」くらむと「也」
孔子も表裏の「中」を「互」の「中」も「春秋」
ありて「一字」の「信」疑ふと「ある」は「れ」善の「字」と「ある」

「一」の「信」悪の「字」と「ある」は「れ」善の「字」と
「は」や「一」の「字」と「ある」は「れ」善の「字」と「ある」
ハ「一」の「信」孔子も「信」常と「ある」は「君子」之「言」道
矣「轉」者「無」察「則」道「不」入「一」の「信」論語の
視「觀察」も「人」と「あり」て「言」と「ある」は「れ」善の「字」と「ある」
ありて「一」の「信」悪の「字」と「ある」は「れ」善の「字」と「ある」
たれ「吾」人の「表」裏と「ある」は「れ」善の「字」と「ある」
とれと「方便」説といひ「信」人の「表」裏と「ある」は「れ」善の「字」と「ある」
己「ある」は「れ」善の「字」と「ある」は「れ」善の「字」と「ある」
これ「の」は「れ」善の「字」と「ある」は「れ」善の「字」と「ある」
て「吾」信「手」と「ある」は「れ」善の「字」と「ある」は「れ」善の「字」と「ある」
かく「善」の「非」敢「吾」信「也」疾「固」也といふ「言」語

わんがし

一

一、時宜の自在と察と一誠一言詔の人ゆら
らと、北影回し、アヤとひて、小人之言、同幸君子
意、不可察と、あけき、一也言詔、い、も、人、
む、う、い、く、も、い、ん、の、ま、と、ち、う、う、あ、う、い、ん

道文章

白馬文章訓、入る、文章、子の用、い、す、と

今、一衣冠の、あ、い、あ、れ、ら、然、一羽毛の、あ、や、り、
雅、俗、も、さ、る、早、も、さ、る、ま、さ、ま、さ、る、一水母の、殻、
は、れ、く、海、中、と、あ、ら、い、あ、ら、い、く、く、道、い、文、と
り、く、人、一、は、く、く、文、ら、る、と、さ、く、世、一、あ、ら、い、
と、れ、子、も、子、あ、い、と、一、言、い、足、志、文、い、足、言、
不、言、誰、知、其、志、言、之、無、文、行、之、不、遠、と、れ、
あ、ら、い、道、と、ら、い、い、ん、文、の、さ、ら、い、と、あ、ら、い、

は、く、と、道、の、文、章、に、れ、子、く、幾、言、と、い、か、
助、衆、い、く、と、く、北、意、と、あ、く、は、在、子、く、富、言、と
而、い、ら、く、一、物、の、形、音、一、過、當、の、ゆ、さ、ら、い、衆、也、
の、七、子、を、事、考、と、幾、言、も、あ、り、富、言、も、あ、り、俗、語、
も、あ、れ、い、雅、言、も、あ、れ、い、一、字、一、言、い、文、字、と、あ、り、
ら、ら、い、一、物、を、と、讀、は、く、と、い、に、書、に、正、子、の、音、も、い、
あ、く、亂、流、の、字、も、い、ふ、れ、い、る、も、い、ら、ん、も、讀、
あ、ら、い、い、和、玉、の、篇、と、い、う、と、い、な、り、い、ら、い、と、秘、密、
の、一、は、と、い、阿、提、羅、波、提、羅、叫、一、唱、あ、れ、厄、病、
と、い、ら、い、化、相、と、い、く、い、る、も、い、ら、い、金、と、い、
持、と、い、一、唱、い、や、い、る、の、功、徳、あ、り、い、七、子、も、い、
の、る、即、あ、り、い、と、い、や、い、れ、い、い、い、佛、の、軍、也、

て二道とさういふものあるは、
の文とさういふものを用とさういふ
万巻あるは、さういふものを用とさういふ
子細あり、さういふものを用とさういふ
書十五書とさういふものを用とさういふ
とあり、さういふものを用とさういふ
俗語の事、語あり、さういふものを用とさういふ
――と訓あり、さういふものを用とさういふ

滑稽證人 梓も、た、儒書、も、何、れ、も、は、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、
論も、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、
何、れ、も、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、
さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、

お、う、ち、か、か、り、は、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、
と、文、子、を、穿、鑿、し、よ、う、と、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、
味、と、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、
と、文、子、を、穿、鑿、し、よ、う、と、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、
さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、
さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、
さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、
さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、
さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、
さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、も、私、に、さ、う、い、ふ、人、あ、れ、

滑稽

一

してていよくそまおとらむをくし國家のあけざと
 かまふ一しらりき諷刺の和説とましてんぬ
 邪居とせむらぬや海して方朝う不死の辨は
 武帝いよくいらぬひて車朝衣^{ハナキ}あありおの
 妻あんにられし今し小滑稽昔のくし智に面方の
 ことばあへてし死し墮れししめりておのめを
 ことばら王子比干よりやうらにそり信妻叔齊
 けららららんをことばもあられしおの
 けし鬼神も勝とあうらけありけらるるまんとあて
 實とあてまへし不道の君の母にさうらさるる虚
 しあけまんとあてまへし不道の君の母にさうらさるる
 實のあらしむらして虚のあらしむらさるる人のたわを

ろくし儒術も連能もはまらるる今んたことと海後まら
 今んたことと海して言語もまのありのあふらまをせ

張儀蘇秦

白馬教誡訓し一廿日おの大略といふ
 論語十哲の評論ありむらより儒術の
 人くしん宰我子貢といふあふらるる張儀蘇秦の
 族とく辨口の設客しるはけりて今め世に蘇秦
 のそくし不實といふもれはしむら言語と文章
 いれらのみ解しむら世にのみ用とちちねらるるや
 かりて夫子も陰まらるるあし微しむら對しむら
 傳の二子とことしつら仲とと行しむら結の二子と
 けらるるのみ言を言説の用らるるや儒術しむら
 ぶらの詩書も礼ももらるるむらとあふらるるむらに

ありてとてやちやて角の神文より史記の列傳より
 齊田常欲伐魯孔子曰魯父母之國孔子何
 為魯出孔子路子張子石請行孔子弗許子貢
 請行孔子許之中畧故子貢一出存魯破
 破吳疆晉而霸越十年之中五國各有存亡
 されし時其の軍とさふれりゆりてありけり
 ぬし父母の墓所とありしれしり言詰り其
 つもありやうありたりのさうりありしり
 るもいふありしり天運の事ありしり
 時いふ事ありしり宋探海ありしり
 其功とさげしゆりやうりすありしり魯
 存魯五之始強魯弊吳使越霸者賜之

詭言傷信慎言哉とて師内ノ教誡のほれ
 けりてけりなりなるものも細ありけりよれ子の家
 訓に屈節の二子ありて所治りお徳の秘訣に
 ありしりけりて一國家の治乱とありしり風雷疾風
 の事とおありしり事いふとけりてけり
 とありしりしりしりありしり天道のありしり
 孔子ゆりて美のけりしりて徳ありしり
 とありしり文事ありしり國とありしり政ありしり
 とありしりい言詰り人とありしりい言詰り
 へ文事ありしりい言詰り連徳のけりしり能言詰り
 急用ありしりい言詰り治道のありしり
 才下し徳りの治ありしりい言詰り

屈節の二字は坂の末巻

唐虞以来にしては、強弱の理よりして、禹湯の下の
 之種の用のしや、況や末の世の治道と云ふ政の
 文学の迂遠よりして、言説と今の多用のちや、
 ちやりと、五帝ののる、即とを、あれて、戦国の中、に、
 こと、あつて、時代の通の、同利ちや、つて、
 政の、も、文学の、し、け、り、言説、は、ち、
 と、の、く、夫の、使、令、し、て、し、れ、し、智、は、身、と、か、ね、る、
 あ、ら、ん、く、し、る、身、の、あ、れ、し、る、治、道、は、于、文、の、
 と、れ、つ、て、于、文、と、治、具、の、あ、れ、し、る、と、な、る、
 ち、あ、り、
 今、や、治、道、の、互、利、と、治、具、と、は、ち、り、
 文学の、政、の、し、る、は、ち、り、政、の、し、る、
 于、文、の、人、と、言、説、の、し、る、言、説、の、人、と、利、と、
 する

ち、り、張、蘇、の、智、言、し、つ、つ、と、孫、吳、の、于、文、
 は、ち、り、と、れ、ん、我、言、く、言、説、も、ね、ん、
 仁、不、知、し、る、や、け、し、る、論、語、も、子、路、の、
 と、あ、つ、つ、や、つ、つ、必、也、温、言、而、懼、好、謀、
 文、の、以、雅、の、表、法、と、し、つ、つ、
 ち、り、と、右、子、の、儒、者、あ、り、
 と、し、
 非、也、と、も、
 今、ち、り、と、
 子、言、く、
 不、根、の、持、論、と、り、
 目、の、
 する

新編

四十五

ありはれと危行言孫とてその所の二歴をたたく
ありはれと危行言孫とてその所の二歴をたたく
ありはれと危行言孫とてその所の二歴をたたく
ありはれと危行言孫とてその所の二歴をたたく
ありはれと危行言孫とてその所の二歴をたたく
ありはれと危行言孫とてその所の二歴をたたく
ありはれと危行言孫とてその所の二歴をたたく
ありはれと危行言孫とてその所の二歴をたたく
ありはれと危行言孫とてその所の二歴をたたく
ありはれと危行言孫とてその所の二歴をたたく

これと似たりとて人として詠も猿も鳥類としてなり
今も面くの机の上に文字を一遍の書きとてこれ
とゆくは所をけとて一の重を歴典も今も詩歌
連絶し一以貫之とて一に万通の事とてこれ
史記も孔内の弟子傳も論語も七十子の勸懲も
子貢の辨論も張儀も蘇秦も説客も評林も
我徒の村本もして吾人の文をたててこれ
いよ作の文はけちりなりとて
宋玉文章 白馬文章訓も今も此流の文章の
宋玉の招魂の文も今も此流の文章の
詞とりけりてこれとてこれとてこれとて
あつる朝う若客難も班固堅う若客難も班固

の巻上

の巻上

しむにちかき伊辛の任方る人似て言ふ諷諫と
諷諫の義ありあはれき言の義ありしに
たむしむを諷諫とす危行言孫のしんせ意に
あつふと諷諫しよ巧言令色のいんせはれし
叔家の客はしりあ達しり師孫とせし
二祖の標做とゆつりあひくはし心下と
あつりたれしそまの客附ししてけ二百が
せれの公道あんな純潔といふけ潔いさりて
百世の人とゆく迷りたる世の人とあふ悟
あむ速指と人の水と能く我しと暖とあへ
たれあつり人な説くも減る純潔の二たより
諷諫と諷諫のやあれし客の二子いけは

あつりあつりけあれま子も子黙る忠義と
埴梅し君子之行已期於必達於已可
屈則屈可以伸則伸故屈即有所以直
来伸者所以及時是以雖受屈而不毀其
志達而正犯於義や言にけさといふ
可伸則伸と我とあつり時し所以及時
可屈則屈と我とあつり時し所以有待
ありさつり心のいかに言語いしんせ
しあつりいし早きと諷諫のあつり
言にちのれ子のき人ころし子子のいんせ
しあつりあつり百世の今もいしんせ
人し軽めしと世に時の我國の隣の人と

の事あり

の事あり

海峽殖民地
總督府
秘書處
文書課
收

時あり或はの言にまらぬ人あるも此の言
 ぞこゝろあり或は酒色よまぬものあり
 中鷗ときよのむおにわらぬ人あり
 りしとれよ例のあらせしめぬと申す
 中じりり同くも人とするもさへ
 下すもさへもさへもさへもさへもさへ
 此語の席よりある軍中の及向と云う
 世代の用もさへもさへもさへもさへ

傳曰

佛語内證 佛は佛なりといはるるは
 佛に佛とていふは佛の威徳とていふは
 佛に佛とていふは佛の威徳とていふは

信徳二字 佛は佛なりといはるるは
 佛に佛とていふは佛の威徳とていふは
 佛に佛とていふは佛の威徳とていふは

信徳二字 佛は佛なりといはるるは
 佛に佛とていふは佛の威徳とていふは
 佛に佛とていふは佛の威徳とていふは

の言に

の言に

佛語を信法早後を此の言に
 信徳二字 華嚴經十四賢首品
 日信為道元切徳母

とあるとれ下儒行のれ後玉帛の信同也此家
の首属し有力の檀那も詞の表重と申すも
はるんやそと能く了る時柿の核も子天四種
とめをさく六十の天地は括りも一はに録
一粒の信もさるなりと申すはれし仲書し
心施財施あれは種も言送財送ありて
表むるの優劣もあはれし信もさるし信財
とあつて信言とあり信財とあつてはれと
善はくしてはれしとありてはれしとありて
境極しく貧乏なりて財とありてはれしとありて
孔子に世代のよきと感と一はれの徳もと家語の
致思に季孫の粟とらるるに敬叔の車と

ちりて徴夫二子之貶賦則丘之道殆將廢
とやにれしと無隱乎爾とる季人の家語
ちりて徳季の令り人必とかりてはれしと名利
といふ人も意の名利と我とありあはれしと
誠とさるるやちれしと今も信とはれしと建を
のふれ翼りて財用もさるしとさるるも
陰徳 白馬教誠訓に陰徳陽報を教のたぬりて
例の字面もすさるる一はれしと世によきあはれ
きとさるる人もさるるも一はれしと金の夫
りともさるるも人のちりて一言のれとあり
も金へ堀へ控りも同ああり一はれしとさるるも
陰徳も子誠し徳のおはれしとさるるも一はれしと

既
佛理の徳を信する人を初帝として天上の五帝を
トハシス

死なとありてあしより都ゆの人の足とあむら
 らはらんあさる人むくつるも都ゆの人も報
 の罪ありれ子の担難とくらへて天生徳於子
 りともお撲の喧嘩の荒言もあつと今日のをまに
 信やしもかみ下し功とさみのまこととせなれと信
 らる抱の筒をちりり不顯惟徳といふ仰れ
 い抱と形容りて栄世の累とくらふ人と天上の
 五妻とくらふ人の世ありて徳とほくまむと
 りんをなく老ぬの用とさうしてあそむ向れ
 弟おとまる人ちらんはくむいさむらむと
 削し一よぶのきらん何りて我あよとらと十人
 つい人のあよとらととあよとらふ不伐善不施

とも儒内し顔回う徳りちると神家の運
 い武帝とくらうく一まず走まの我ると
 とも才功佐のほくもいさむらむと

の庸人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
の要とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
此よりあるに虚々の虚々の虚々の虚々の虚々の虚々の
家の秘密ありて虚々の虚々の虚々の虚々の虚々の虚々の
あり虚々の虚々の虚々の虚々の虚々の虚々の虚々の
名利の用と不用とあると天下の師とあると賢人の
の寛大ありて虚々の虚々の虚々の虚々の虚々の虚々の
とありて耳とありて鼻とありて目とありて舌とありて
るもありて孔子の権子論と朱子程子の説
とあるは権稱鐘也取中者也やこれの
中とありて向くは章とありて公とありて

當然とありて虚々の用とあると賢人たるは虚々の
此のよふ祖の孔夫子と君子欲言^{スヤ}之見^{ラントセ}信
也又善^{キハ}乎先^ツ虚^{ニスルヨリ}其内^ヲと信の二子^一的當
とありて虚中の虚中とありてやこれの類回とあるは
かありて回能信而不能^ス及^スとありては虚の類回とあるは
権ありて虚ありては虚ありては虚ありては虚ありては
とありて虚ありては虚ありては虚ありては虚ありては
於空^ニ實^トとありて實と權と通用して米櫃
とありて米のありては米のありては米のありては米の
あり米のありては米のありては米のありては米のあり
とありて米のありては米のありては米のありては米のあり
儒の^一大^ニ和^スの^一六^ニの^一子^とありては虚の助語と

変の有りありこれらに瞻前勿後の語として
ある一誠といふ人の短命あることこれ所の撰集
の虚言自在あるに返してしあけさるる
孔子の残念とある一子路の虚言の代文と
或は官仲といはれ一子路の虚言の代文と
意色是知推命也事所射君通於
也一子路の虚言の時とある一子路
権とある一子路の虚言の時とある一子路
一子路の虚言の時とある一子路の虚言の時とある一子路
二程の比とある一子路の虚言の時とある一子路
可與との二章とある一子路の虚言の時とある一子路
あれん頃権の二子路の道の権謀あり一子路

とある一子路の謀計あり一子路の論語の正権の
けい子路道の虚言ある一子路の虚言の正権の
る媒一子路の儒術を在の糸のゆとある一子路
言と我家の一文あり一子路の道一子路の信とある
一子路の虚言の虚言の虚言の虚言の虚言の虚言の
言の虚言の虚言の虚言の虚言の虚言の虚言の
世にちる一子路の虚言の虚言の虚言の虚言の
勸懲先後 師説一勸善懲惡といふ師家の
の教誡といふ師家の教誡といふ師家の教誡といふ
い勸と懲といふ二用あり一子路の虚言の虚言の
善惡の改めといふ師家の教誡といふ師家の教誡といふ
とて人といふ師家の教誡といふ師家の教誡といふ

善の西の情とこけりて丹有る長中といひて
さしあ子路に進めいひやうとてこらとて教誨い
詞の昔見討とある一とあるに先後の詞と
こらとてさしあ善のさしあもれん教作とさしあ
醫者の配劑と補浮の配とさしあもれんとさしあ
さしあ益氣湯とありとていひて

孔子牛刀 先後の太略と儒行と礼記の和
齊の絃子と鑑あれとて子游と武城の一篇と
大小の重とてさしあもれんとて耳聞のさしあもれんと
さしあもれんとさしあもれんと孔子とていひて
さしあもれんと史記とて後文あり孔子
以厚子游羽所於文學子とてさしあもれんと今の朱喜集

註んたれぬのたしとて結文も及んて例とて
の塩梅とていひて夫子深喜のさしあもれんと子游以正
對とてさしあもれんと孔子とてさしあもれんとさしあもれんと
け趣と茶話禅も禅家の商量とていひてさしあもれんと
さしあもれんと趙州の向答と僧向一物不將來時如何
州曰放下看僧曰已是一物不將來放下這什
麼州曰恁麼則擔取去 けさしあもれんと子游
さしあもれんとさしあもれんと所道とていひてさしあもれんと
けさしあもれんとさしあもれんとさしあもれんとさしあもれんと
人との甲とてさしあもれんとさしあもれんとさしあもれんと
百人の峻崖とてさしあもれんとさしあもれんとさしあもれんと
も趙州も合とてさしあもれんとさしあもれんとさしあもれんと

のさしあもれんと

言とちいし一のりつ律や言とく一履とちいさる
むらり一履とく一言とちいさる一教化の象の
大なるものなりやむらり師牙の初徴也君父の
訓諫よかりしむらり一履とく一言とちいさる
むらり一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる

母

必母固一貫おの四絶の論一儒の正法せりし
言とちいさる一貫おの四絶の論一儒の正法せりし
言とちいさる一貫おの四絶の論一儒の正法せりし
言とちいさる一貫おの四絶の論一儒の正法せりし
言とちいさる一貫おの四絶の論一儒の正法せりし
言とちいさる一貫おの四絶の論一儒の正法せりし
言とちいさる一貫おの四絶の論一儒の正法せりし
言とちいさる一貫おの四絶の論一儒の正法せりし
言とちいさる一貫おの四絶の論一儒の正法せりし
言とちいさる一貫おの四絶の論一儒の正法せりし

一ものちいさる一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる
大なるに美れきありしむらり一履とく一言とちいさる
あれはちいさる一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる
一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる
一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる
一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる
一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる
一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる
一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる
一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる一履とく一言とちいさる

の傳を駁する家語の變通用しとあげてかまへ
かゝく論語と虚文の鑑あるんやれずも陽貨
の一篇と論語一部の曲節して或は屏版と
もくしあるんや將仕と時宜の孫言あり或は
牛刀と鮑瓜の二章へ詠笑の諷の冲文して
子游より礼記の喪用也とへ子路より文質の和
説とちしむるや或は玉帛の摺詞より孔子の喪喪
とあるてく或は朱紫の摺詞と論語の以雅
と移して一或は無言の釣説とより子貢
の辨入とあるてく或は楚琴の作病とより
孺悲の虚文とあるてく或は食稻衣錦の
記と居る孔子の二代の幾言あるる章註はれ

と世智辨とあつてこのくを序の表も并に
の各も例し徴西の過當あるやとあるに
七十一才より七十二色の勸懲とあるて
或は博奕の一章も例の摺詞とあるて
宰弔の徴西のほくもあるを序のあは
るる一や或は女子と四十一の二章はけい
の徳文あるは仲し不事也の内訖して
はし陰とありて後章へ重符の嘆息あるん
あはれ論語の元二篇と大むれこれの變通
して何する意必固我らるやその諸書
の文より或は景伯の虚文と評して
為夷徳可欺而不可及と評して孔子

の序

と

さう智慧し辨舌の花と咲きしと愚のこゝろ
ありしと不教誡あり例し文教の常用とさるは
誠し和厚の丈人といふも文教の差ふとさるは
さうの虚言の類のちちらふもたぬる

其虚道理 け返し能諧の辨ある一一人のさあはく
たむくしと男女の愛持しあぬるれさるは
の序と説文とあさりきし遊すの常はあは
金よ全盛の客とあさるは負ふ力と金あま
男とあられむと人のあはくしをむくし
さう舞妓子の名とさくしさぬるさ
人のあはくし二おこるも或は甚弱の田舎と
塔梅より附さん今とさるはたさる

大名のふしとさるはありしとさるは
さうさむくし一虚しあはくしとさるは
様婦ありあはくし木のたれ互にくあはくし
はさるし怒あはくし仲の働の互にあはくし
さうあはくし喜あはくし仲の働の互にあはくし
あはくし知しあはくしさくしと諷諫の和説と
いふあはくし又倫の説あはくしおさるは父子と
夫婦とにありしと又才と朋をとらむとさるは
さうあはくし従はれおのちあはくし私のさるは
はくしさるはさるは和節とさるはさるは
利害の説といふと子さるは子さるはさるは
虚言見之虚言 白馬教誡訓しはるは能諧の虚言

こゝから儒仲の後なる内訛と例の成りてくる
也とあるに虚之文の虚を以てあると今こゝ儒仲
の内訛にもあるもけりし能治の詔とある一
はくも意と虚之文に實とある名利の用
とある虚之文に虚とある名利の用とある
けりしと天の支配してはよく付くはるる
世に山崎の先考も一貫抄の大綱に孔子虚の
虚之文論ありて、そのおのたよりありし
論の類と孔子虚と儒家の之祖として
孔子の道と孟子にひびきたりて孟子の論語の
再記ありしとこれと虚之文の詔の似而非
ありしと孟子の虚之文と孟子の二方章上篇

孔子も周公も虚^{スル}天子あるは徳^{スル}天下
とあるのちの虚之文と孔子の虚とある
はくは孔子の虚とある孔子の虚とある
といふんはよく天道のちの虚とある
一氣の動くちの物に虚之文の二用ありて天
に虚しひびく地に虚しちのちの虚とある
るにありし善とあるとあるとあるとある
これと善人の善とあるとあるとあるとある
とあるとあると善とあるとあるとあるとある
此と虚之文の善とあるとあるとあるとある
ふありて父子とあるとあるとあるとある
美とありて忠とあるとあるとあるとある

の善あり

天下の君とあるは國の實の虚とまはる天下の所
とありはれは師とあるは位階ありて師の
位と稱されと君と師とありて位と
名とありて天倫の次あり或は虚
と師の實ある一國一城とありて或
も實と師の實あるをれとありて女子
とありて子けりはりて儒仰の大秘ありて虚
と虚あるを倫とありて誠と虚との大騷
あり人の實と虚とありて虚とありて日月の
歎と人道とありて人面歎ありて
人面のほくる時歎面とありて虚とありて人間の
虚ありて所以ありて五倫とありて虚ありて

けり君とあり師とあり子あり今あり天地万物
あり一力一毛の虚ありてまはるありて
天下しありて孔子も合とありて家語
と敬叔と天祚の返ありて乱而治之徳而起
之自吾志天何咎とありて徳と天道の徳と
ありて人界と儒の一道とありて斯徒のそ非
とありて天の實祚と受むとありて
論語と天道とありて天道とありて
のちありあはれ詩礼糸のことありて民可使由之不可
使知之とありて朱註と例のちありて孟子の例
の似而非ちりや舜由仁美一行非行仁美とありて論
と天下ときりありてきりありてありて

完廩宗法後井のじう一詔といふことありて其の論は
これれと親と寔あるを以て困と論はこれ
いふことありて其の論は五帝の史記とありて
も儒書といふことありて其の論は彼も井の
のちけることありて庚申のおの轉にこれありて
象のつらうに子産の放魚のちきりといふは
人の智恵といふことありて其の論は
も魚といふことありて誠信の決断といふことありて井の死生
のちきりといふことありて其の論は
困といふ論詔の返答といふことありて其の論は
も魚といふことありて井の有無といふことありて其の論は
死生の論といふことありて其の論は

も似即似是不是といふ相似の論も言ふことあり
て其の論は白馬牽道訓といふことありて其の論は
と父子の信といふことありて其の論は
も信といふことありて其の論は
みりて素而不得といふことありて其の論は
も信といふことありて其の論は
も信といふことありて其の論は
とありて其の論は
儒師といふことありて其の論は
捷徑といふことありて其の論は
て其の論は陽報の名といふことありて其の論は
貴四討の何れといふことありて其の論は

わがわが

た

其の海やこれの談言と云へて例の微中
と云へり

其實其虚 其虚と例のそと地あり世の中此のそと
いふはるをよりいふをそとく虚を其のそと記さ
かゝるにけりし禅録の詞とありやうの地獄抱糸
と云へりさうに提はす地獄に在ありし固観の返
答もさうに云へり中まをり地獄に極樂し虚を
も善惡し心の所造あるは皮中の蟻の如し
居虚行實 一對と我家の西文や云へるに
地元の宗匠云ふに此詞と難しきものなり
實も亦く虚も亦く一と云へる虚と云へる一と云へ
後と云へる虚の比はしむるに吾輩

の人此の虚に實の心ありはるは遠あり能はる
今日の現と云へる一と云へる又倫と云へる一と云へ
の云ふちりらと妻の云ふちりらと云へる人の
我妻と云へるありしに我と云へる妻の云ふは
ありし今日の虚もありし一と云へるありあり
一と云へるをねらと夫婦のありあり今日も我々の
虚を云へる云へる又倫と云へる虚を云へるあり
夫妻の云ふありしかつてありし人か我妻と
ありありしと云へる記し互倫の云ふとありし
て人か指ししはるありと云へる我々の虚
ありありと云へる又互の云ふ此師傳ありし
是非親疎 一對と世にの云ふ用へる是非

是非の事

是非

友人と云ふて親疎を我と云ふて一はけを
白馬の金言ありあるは是非の証と云ふ事好
法所し是と云ふのてはれく判し是非の証
是ちち對しよめい非ちち對しよめい
と証と儒仲の連珠とあるは法所の論
ちちちくあるも人間と云ふ非ちち中と云
し是ちち時あり親疎はけいよめい
とやせと云はれくの二道とて我家の能
時百の代と建ちて世代の急用と云ふ
と云はれをれと傳よありと云はれ
と古人の鑄形と合としと云はれ
建ちと云はれと云ふ事ありと云はれ

一巻より八字九字と云ふて一はけの難
い之師の法れくの讃と云ふて一はけの親疎
の証と云ふと或は親と子の處と云はれ一飯の
ちちちよめいよめい時あり他人のあきけ
ちちちよめい或は親と子の處と云ふ千金
のちちちよめいありありと云はれと云ふ
と云ふありと云はれと云ふ又倫の証と云ふ
との差ありありと云はれと云ふ白馬の金
信ありと云はれ父子と云ふと云はれと云ふ道
の師近とあり美ありと云はれと云ふ夫婦
ありと云ふ有るの明ありと云はれと云ふ
と云はれ美ありと云はれと云ふ不特と云ふ信

白馬の金

十六

功成而不居と云々と釈疏のらわらば、
い佐の一子ちり人さるにけさおとさるいさる
臣の美徳と信交とけく父子の信交に美徳
とけさけく仲と過さるにさるさくさる
及られいさる一さの喜怒哀の天れいさる
いさるいさる人ねとけく又偏とさるいさる
虚交のあつらふれんやせさるさく夫婦は違
つらさるいさる虚交とけく人あれいさる
兄弟の信交もさるいさるいさるいさる
れ智とあつらふん論説の和同れ節とさる孔子
執家暗とおさるいさるいさるいさるいさる
あれいさる和いさる私の交とあれいさるいさる

け六の差ふらと白馬の教誡のさる用うて信交し
仲もいさるいさるいさるいさるいさる
の終いさる信用とけく
仁義好惡一貫抄と世論ありに多し好惡の
交とさるいさる齊の若く仲う二君いさるいさる
孔子論説いさるいさるいさるいさるいさる
いさるいさるといさるいさるいさるいさるいさる
仁美の用とさるいさるいさるいさるいさるいさる
く美とさるいさるいさるいさるいさるいさる
いさるいさる道のいさるいさるいさるいさるいさる
あつらふれ美とけくいさるいさるいさるいさる
いさるいさるいさるいさるいさるいさるいさる

可くも虚もなきとあつて應無所任の心と
はてしなくやせぬといふ一の類如孔子は成る
のついでにその神がれとやせぬの所を言はせり
しく儒書とも所詮ともするちり

傳曰

言語表裏 けいごの中と外と後の言語の表裏的
ともなきといふ所の類あるをいふなり
儒仙のおもひも表の一方よりいふはくさる
も裏の一方とある所の文字のうらみは
いふなりとて切りの言はれぬ博子の心も
向ふ一なる一文不通の紙階神といふも
此深なる神といふ文字の儒といふ

耳とたえなき一乃巻の表とすむより同とぬ
て一即の裏とすむなりとてはれ
いふ事とて侍とのやもあれあなり顔回も
氣はくといふ小人之言有り同手君子者不可
とていふに君子は行言小人は言言
夫子の返答と例の表とすむはれよ孔子の道
子思の言と察の言とすむはれよ作常の言と
いふもいふなりちり多言決の察も察入自己
の境極ともあれとて一箇十知の心といふ
近詐之真言 持らるるけいごをけいご
虚言あれともたれも虚言の虚言といふ
の虚言ありしはれとて實詞は實詞の誠信の

河津とてよふくも虚を言ふありも言ふ虚あり
も早き言ふと妻とてふ時よきなり或は迂詐
の言は言ひてやと論詔よ牛刀の戯ありれその
詞よ迂詐の戯とて一夜の時を言ふ言のく
子爵の字文のゆけもあひとあつる言ひ言ひ
或は真言の迂詐とてやと法老の自権頭を
あり和迦の詞よ今やその方便とやとけい
い言ひ言ふとあひとてよ八万の聴ふとあひ
のく一万余にやと迂詐ありあは淫舞を
よとてやと一孝不説とらとあひとて
虚を言ふ虚を言ふとてやと平正の儒仰のあひ
もあひとてやと論の十段とてあひとて一毛と

設けくもてけり

識文口傳

識文口傳 識文とて未末記あり漢よも虚
の危かきとても言の隠ありけりとて言よ
とていふとけり新世とてけりとて附屬國王
大臣とていれりも言とて言とて誰
與とて言とて國王も斯人も儒仰の用
ちりとて言とて建之の言とて言とて言と
の危かきとて言とて言の隠ありとて言と
子産の遺言とて言とて言とて言と
政のあまきとて言とて言とて言と
相濟政是以和とて言とて言とて言と
いも時とて人の用とて言とて言と

る

疾や疾とわらあめしる修海自在のみちる
次論 師は次論の先後よりききし新と子此遠
圍よりあれて幸とるをわらあめしるをわらあめしる
他人ありるをわらあめしるに思ふとやわらあめしる
の僧をよ好醜の次をわらあめしるのさるるか
儒書二面 按もるに師とあり父とありんを角よ
そ子とありへむとあり或とあり或とおよむとされ
と儒師の勸懲より方便より二面よりわらあめしる
れ子の二面より子貢より巧言とありを子路より節
節とあり季桓より片とありやうとありをわらあめしる
はむとありてはむとありて五帝と説ありてわらあめしる
固とせらるるに権要自在の方便よりけしめあめしる

あふしとありてわらあめしるれ子の大虚より
かむとありて下の小虚ありん
詩次女 遺稿夜話より黄門のふた訓といふて
和音に流水の大地りそとんといふと破るとも
と破るといふとわらあめしる上破るに
の服をわらあめしる秋の月と不向とるの月おと子
と所よりとるわの次より故のわらあめしる
あの向らわのまをといふとわらあめしる
よあむとわらあめしる付あるといふとわらあめしる
そあむとわらあめしるわらあめしる服のわらあめしる
まむとわらあめしるわらあめしるわらあめしる
膝所の曲めをわらあめしる尾のわらあめしる

わらあめしる

わらあめしる

くるくると才丁ノ意の拾梅とてなれ才ニノ身は
 子文とてまのし一しうらふ桃造の志し不ぞくと
 年月の節と調さるるふあさしき一合の証ち約
 神ノ年月の節と調さるるふあさしき一合の証ち約
 才ニノ身は子文とてまのし一しうらふ桃造の志し不ぞくと
 年月の節と調さるるふあさしき一合の証ち約
 神ノ年月の節と調さるるふあさしき一合の証ち約

一子一點 掃きりん象物の波ありし言信の波あり
 子ニ子あり一子の波ありか備へてきよ二子の波あり

とるる一しうらふ桃造の志し不ぞくと
 子文とてまのし一しうらふ桃造の志し不ぞくと
 年月の節と調さるるふあさしき一合の証ち約
 神ノ年月の節と調さるるふあさしき一合の証ち約
 才ニノ身は子文とてまのし一しうらふ桃造の志し不ぞくと
 年月の節と調さるるふあさしき一合の証ち約
 神ノ年月の節と調さるるふあさしき一合の証ち約

吾てはむけをねけしむる物を馬と云ふと襟
切つて後よきかへらるるを信せしむ婦人も
ゆりもこれ其化のあらむことさら眼と見と
一子より家の全員福も人の多かきおのり
も静静のちりいふもあつたるのさるる
例の塩梅人ら眼むらむらぬらむらむら
をふねしむをねとふらのおもひよの
一歩より次ちの備とゆふは言決の
いふらむらむら親の親もまらむら
せとせきむらむらにむらむら親の
いふらむらむらのお師と信付らむら
今よりきむらむらむらむらむらむら

温
故知新 先後おの天略と信諾と知の字の要
もかくのこころかりちりいふ信者知者
世代の機軸もこれきり
一きりな一字の詞よりしよのきり
とあつらひむら言信のあつたさ
らりいふむらむらむらむらむら
むらむらや信のあらむらむらむら
とあつらひむら言信のあつたさ
らりいふむらむらむらむらむら
むらむらや信のあらむらむらむら
とあつらひむら言信のあつたさ
らりいふむらむらむらむらむら

る

三

事としてさしおけ此ある巻に構のさごと
 奪ふたりおちぢりめりよもさ家の名とほけり
 こふ才との所合よと辭の乱陳ありおちぢり
 難してさるけ句をりおちぢり構のさごと
 かくてあし作るより陳してさる亂陳のさごと
 尾も難し所のおちぢり判者云ふさると
 亂陳のさごと方とさるさるとさる亂陳の所合は
 じふにさる構をさるとさるとさるとさると
 家保のさるとさるとさるとさるとさるとさると
 ちよ尾の難のさるとさるとさるとさるとさると
 とさるとさるとさるとさるとさるとさるとさると
 いらしは子あれさるとさるとさるとさるとさると

さるとさるとさるとさるとさるとさるとさると
 けりさるとさるとさるとさるとさるとさると
 かくのさるとさるとさるとさるとさるとさると
 かくのさるとさるとさるとさるとさるとさると
 ありさるとさるとさるとさるとさるとさると
 あるとさるとさるとさるとさるとさるとさると
 かくのさるとさるとさるとさるとさるとさると
 削のさるとさるとさるとさるとさるとさると
 才とさるとさるとさるとさるとさるとさると
 てほとさるとさるとさるとさるとさるとさると
 のさるとさるとさるとさるとさるとさるとさると
 のは北さるとさるとさるとさるとさるとさると

と耻へくよまをさうく所とえぬ一し中より
 儒書も佛経も主時そ人の用うして勸懲
 へつ児の啼とやせむるちり一
 十年道 梅もらん此道の後りよ十年は十年
 還ししよと月日のかきらうといふも此経
 といふ九十刹那といふ一念の間の往來あり人の
 の如く對する時と 初念いふ一りらるるおあり
 けししよとえのくま時と時よりゆりと吾人を
 つし経よきこふよと馬人といふことを打越
 世のふあふよと能活の調ふ婦人といふ世界
 の字もあふよとと知んといふ様根といふ
 金銀といふやせしよと井と知んといふ狐の

石作ありて道の後りよとあふよと居るよと也がく
 い経の一念といふ二段の人を差ふといふありて此
 妻とあふよ一し此の往來のや又し時をわたり
 國もさうちとといふ附合し打越のそといふは阿
 るれんくこの趣向といふらるる或は懸念の世と
 あり 或は秀内衝つ鼓と事ありてその趣向と
 二ありといふありといふを平よとありてこれを
 所合の飛句といふ趣向とありてありて調の
 妻妻に飛活あるといふる 乱世と事ありて
 とて一仲間よ巴の母とありてせしよと軍よと
 回傭も具足かりたりといふ例よとありて
 曲の節とありてありて飛活の備ふといふて終るは

きふをいけ所念の園の軍とああなるよな
くも曲意を非自のげりあねて例の味下
らりさかかきさるもめ味下の入らるる
まおの目よつるねたすきとさき一息の間
よかたりくおのりとはは所専らゆあいに
所らる曲意とあちかしくささるあ
る物一七君八君のぬきさるる所非の
のさるるさねて次の階句いさうよすらり
の思格とささるる例の味もよさるる上
も下もいさるるあ人もあきか念のほい
あり非のさかると一層とささるささる
修り地と儒佛の道さる世間のほいほい

能讀のそよ文よけ辨のほほとさるるあ

游

心和説

け二詔ら文記の賛ありあを文

あり談諧と漢書も七く東方朔牧鼻

賛あり呻吟と韓子も七く多言とす

さるる士農之高に文章草の劣言と班も

其事其理

能説よれすのそよ文のほほとあり

そよとさるる唯一ありけねし論詔も

多言而識之者與一母貫之とさるる

さるるそよあり一母貫とさるるあり

面ら子と子貢とさるる字向と庶細のさるる

一母貫の教も二用ありさるるさるる

さるるさるるさるるさるるさるる

さるる

さるる

とひたれど、あともまたいふべからず、まことに、
二万五千の、いふに、用ひらるる、十二種の、いふに、
一、能信のおよぼすと、失つて、まことに、言ひ、
かゝる、いふに、徒の、れと、句、申し、は、まことに、
の、功、不、功、一、て、趣、向、の、動、靜、一、に、め、ま、不、
伝、し

傳曰

醒世 掃さるるに、評と、評直の、一、訂、一、論、者、と、は、は、
一、て、蓋、あ、り、下、と、文、林、の、解、ち、り、ま、い、万、其、の、
書、と、あ、り、ま、い、文、と、教、と、の、ま、い、ま、と、辨、さ、
論、議、よ、文、章、の、虚、と、あ、り、ま、い、仰、つ、め、代、筆、に、
教、誡、の、ま、い、と、あ、り、ま、い、ま、い、の、書、と、あ、り、
は、ま、い、の、ま、い、と、あ、り、ま、い、一、地、の、形、容、と、ま、い、

あつれ、地、の、形、容、と、辨、さ、
い、ま、い、と、ま、い、文、教、と、い、ま、い、と、ま、い、
ま、い、と、能、信、の、決、ま、り、の、ま、い、と、ま、い、
懲、り、ま、い、と、能、信、の、ま、い、と、ま、い、
今、い、様、の、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、
一、つ、ま、い、の、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、
い、極、楽、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、
法、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、
ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、
ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、
の、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、
四、六、文、法、 文、式、一、四、六、の、ま、い、と、ま、い、
と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、

四

六

文

法

文

式

一

と對し一意と對する字數とすはたは言
 六言ふかきも或るに又も或るに
 とも八言も前長後短の拍子とある一
 とは其の又七一と文章の四六ある語路
 奇偶の用とある凡語をめぐりてあれし和号
 一この拍子よりて更に拍子の雅俗とある一
 されつゝと漢魏の向より本字唐の字も和
 中れし趙宋の氏よりさうしてあつと禪宗の
 疏類し用ゆらうと文法しわらうとあつとや
 子格と王勃と滕王閣の文勢もさうしけり
 能清所と洸めし達磨の凡骨あるとや文章
 禪宗の虚言もあつたり

十編の辨抄終

才八段

渡部 ね編

中身以上 擧ぐるに中身の上と或は武家の
 人くといふ或はちか浪道の人とよ一きとい
 ぬといふの体といふあつとさうといふと家
 名をばねの詞あたりけりけりも自らか
 といと町人百姓とさういふ榮耀の家とせられた
 家業とさういふ面くの實加ちりに強も天理の
 ちとさういふ十重盤の指しぬとの爪とかけ
 彈の柄と府探とさういふにわたり連子にさう
 て厚玉の久留のりといふ言のきといふ

新編

これと孔子も未だ記し説の興放詩立放
礼成放樂民可使由之不可使知之今の意
よつあ財の禁中し和斉の連齊のものと理世を争ひの
比して云ふ殿上の位とあるは僧家と朝堂
暮誦のこしく衣冠とあるは後と云ふて天非
地獄とやうけじと云ふは和斉も言はれども
太平の徳あるは庶民のあつてもその心にも
おこあつて子游も言ふは牛馬のつら
かりて堯舜の仁美と云ふはつらひれども
行之つ由之と云ふは脩己以敬と云ふは子道の人心
信と徳ありけりけり大略の先後おし論り
民由の章孔子曰と衍文と云ふ由之と云ふ前の詩礼

樂ありけりと案行と由此理と云ふは
中以下 遺稿夜話にある日本曾寺の事話
と故義のそつ人ありて徳徳と云ふは所のあり
向むと俗談事話と云ふはありと云ふは
うはのこつと道の徳と云ふは徳の寂然
不動と云ふは徳の寂滅あると云ふは徳の
名と云ふはありと云ふは道と中以下と云ふは
中以下下の風雅と道と云ふは六教と云ふは
と云ふは阿含と云ふはありと云ふは内秘外現の
はありと云ふはありと云ふは孔子の徳徳と云ふは
と云ふはありと云ふは下子而上達と云ふは其天

とい但溺りてきく非ざるありて我の人をも
 世ともさげしむるお普々皆の日用ありと女子
 産婦も下りてたれと王道の上達をむと
 ありといさしむる我らと我氏のすゝめのため
 もささるる危子の履すのさる者といさすのわ
 孔内よけせられあれ論語の言行と鑑みて文
 いたりの履すはあらし教誨とけり表裏と
 とい流るる道よあさといらむはれと柳下惠
 とぞあ人のこし隣と作とやさるる道よ家くの
 こと地あるとみいふけき活とすゆい子張の
 神もさるるといことらとあといらに中
 けしといさめらち居柿主人よりた又條の式と

傳へし俳諧の道の才一、俗談平話のし語
 ありらとてなぬの談笑とてこれの連詞
 いあさといあんに例のすといはらとい今
 ちとれ入つてこれ候よ家くのい言法不到
 のああんにまにけり子のい傳と辨とい入
 もまらるるいこれと難易のいといとま
 て其深きまの傳ちりとい子なるとい
 我勇とつらつらと俳諧の言けと耻といや
 洛陽風土 遺稿、夜話といじつ暖炉の落柿全
 あらひて決まのいといとあつて蕉川の稀ちり
 とあけきつていこれのいといと我家の俳諧
 京の土地よありといはる切のけのあやといも

丁大振のからしむればさきもやうなるに山葵のからし
のちつていふる句は例の似而非あんけねし
おまの人あうくらのむらとほひにく一剛も
柔あもい他階と今日の中は係ちるものとまうい
はしうて落押舎の誦中とありて著美の春
録し入しとす

作意 遺稿類説よりを仔細の西林麻庵よりなり
續猿蓑の撰は未あうしに武城のくくより
春句とわかれりの中は其角もこの章ありて
秋風辞と裁入るる句に似るやうなるものもあ
いしうとす我も人も感ひてこれしのはははの
及かくまうとすなる例のちあふく一書子

けりぬ他階とさげの玉振金ぬの作とありて
天下の人と發するもさうさうなるの變化と
たうも二作とわかれし事詠とまうと作は
かゝる他階とはまうし事自とまうし
となるは章より遷化ありし事やみまの妻と
やうもいぬくおくの作とありて

三作 いまもや新眼図のわく衣

三作 懐しの名前のまうやと牡丹

いふし焦尾ぬもいひ之上時とす佳おくり彼ら
春句とあけし曲節の備あり早竟いさく時
まういし句作の用とる用ととす

雅俗 雅俗よの意の誤あり或は頼政のそは

あはれ

諄と哀と雅とを圓とを俗ありをわくと意の
雅俗とついで或を肥て或を瘠とす上之屬の
いづれも俗語ありに瘦て瘠なりけりありて雅言
ありをわと詞の雅俗とす十段の辨とを又は一

傳曰

乎人矣語 按さるに矣語の二より十論一部の
大よりあるんを子細を儒者も仰るもあやまりあ
いふはよも實とすちて一記よも虚とすちて
なありをちと黄白金の用よ似て是とすて人と
すて是とすて人とすて是とすて是とすて人と
認るりよのついでをわに今の矣語とて聖人
の言ると天地よ通り愚人の言といふがよのついで

えきく天理と人理とに一止の好惡あるありあり
辨はけ二子の大ゆらる諒るも實と勝とすちて
いふ矣語の始誅と仲由向曰君子禍至不懼福
至不喜今夫子得位而喜何也云孔子の答
へ今の詞あり卷末の解とるる一はれん仲由の
虚々の矣とすちて顔色の喜怒とすちて
に孔子と削の隠とすちてよくし時の心とすちて
のついでららる論語の述而の篇よ二子子以我為
隠乎吾無隱乎爾吾無行而不與二子子
者是丘也云先後抄とすちて論語のはるは達
い道といふ無隠といふとせよ二高のるをわとい

るは

一子桐傳の秘了もあんな孔子の道とて天
何とて湯とて一むじやうして是丘の詔使とてはれ
論語の文章とて圖のやとてあんなはる二子
とて其のまゝもあんなとて一むじの相魚のまゝ
位とてわづちむねはれくこ位とて先てた
れんかや七代の喜怒も哀も何とて聖賢
のかりあんなはれと湯とて一むじのまゝ
眼横鼻直ちりやとてはれく孔子の七十一
和漢のまゝ方の論語も論語とて改とて
あんな一むじとて一むじとてあんな一むじ
かう一子とて親とてかうとて一むじとて
一むじとてはれと湯とて一むじとて一むじ

意と謂ふかうとて一むじとて一むじとて
孔子とて一むじとて陳司敗とて向丘とて昭公の
とて一むじとて一むじとて一むじとて一むじ
之をみ帝とて一むじとて一むじとて一むじ
是丘の自慢とて一むじとて一むじとて一むじ
て女子とて一むじとて一むじとて一むじ
則怨とて一むじとて一むじとて一むじ
の急用とて一むじとて一むじとて一むじ
あんな孔子とて一むじとて一むじとて一むじ
朱徑とて君子之於臣事慈以玄田之則無二
者、憲とて一むじとて一むじとて一むじ
あんなやとて一むじとて一むじとて一むじ

夫子はねむらうくく暮らぬのへ女子といふく
不孫ちらぬよこのも拍のくから拍のくあく拍の
かひての歎息あるん或書うし妻の不孫を御下
ねよ播盤珠のこしく中平と美盤珠のこく
終よ仰頂珠のこくこのよ善とこもあね近く
あそり西とこらるる遠くうむたこと色歌の
いよよ下下園睡の行よはくらくし我音は
はらうと世も人賢人しかくともあつひのり也
はらうとれ言方詔の辨よつりつ女子の評論を
あれとおとつらとつと仲のむけうし善よ男女の
天性とまゝの儀のせはよめあつとせとく下下
のあつとつと拍と拍と拍と拍と拍と拍と拍と

の餅とがうくく早とよめはこまらるるいひく
し辨とつとつと世の言詔のまゝるる言ん
言行違 世評と遺行の互秘あれ十論はまゝ
せよひあられんかくく秘とつとつとあつと
はらうと福の遺誡よく我後よ人ありけし十論と
悔とむに言行のほと一部の大節よ道く
の建えよ百世の貞廢とよあけけあよけ行と
尤又條も世の貞のつとつとつとつとつとつと
まゝつとつと世はよ名利の用あれんそとつとつと
建まゝつとつと人るるるるるるるるるるるる
のせはつとつと諱臣辛子の喩より天下の一助
まゝつとつとつとつとつとつとつとつとつと

きつらてふない近く人さあまふありすもあかき
のみよき老巖強と中らりて所合は老と
ふねくそらりんまや源氏の古千帖し復し巻
と中より一や桐壺雲隈とあねいばくろの夜
越向と先より句作と後ちりるとき方一とを
減し今の既撰所り越向と句作よのちいとして
とゆいしお句のつとといふ句の用とよ差よ
あうり早きとるるに理窟よの記ちれ
孩よ水伸の命とくあねい喜よちりてむら
かき一自己の境梅の境梅あふくと世向のく
而のうりて而のうりてわとにきりて之遺行夜話
とてけりあむむうなねい倍とれて之河の新体

とらあまて一蘭お髪のおくい癒はらとよあ
ふくあまて一蘭お髪のおくい癒はらとよあ
の守らとさるるにかさるるの癒はらとよあ
のららとわらわらそおあら御のあら
論語の多識といふらんわらそ子言えん
文とそら一子言えん文とそむ教誡の二用
もそのまもたれとあしつらや一子言えん
のちらとわらわらとそ向とそまらにけり
神その時よけ附と提りて既撰かくあらの人
とそらとそらとそらとそらとそらとそらと
かきらて一蘭お髪のおくい癒はらとよあ
あらゆりあまの附とそらとそらとそらと

あまの

俳諧之連歌 け端書とち付けらあるし和歌の
 亦うつけは法あり 懐排と以置積の用不用は末
 の解しるる一も也あると字保を中し連俳
 と照の法はありや或は連歌之俳諧と或
 俳諧之連歌とひては字は漢和の文あり
 ことく連俳の法ありある一も一其の格す
 連俳の時と連歌よりさうい俳連の時と俳諧
 ちとちと和漢文排とけりあり
 拵排 拵排とて境排ありけ詞へ禪録とあり
 とありん此令ふともや 吾質の理と加減ともの
 ついせし俳諧ともの人し今し所合の微細あり
 とすてそ男つけ女つとて拵排とて物に

唯心の所造りて形も見難入るるもむ
 ちらと我のこかくるのうと合とありあつた
 名んを胸し我れあくふ向の眼ふは海
 てそ男もつけ女も人物のありあは衣履の拵排
 もんわらもあはれ所合の趣向とありふ向の事
 ちあつたり句作とてその用とてその約は約
 一字も一語もあはれあるものありけは身化論
 いか方ふのこ字は結文とありけ眼ふの法す
 つけはある巻の法とて被し和とありけやく
 ありけ句は遊法の物とありけつら所句も
 ある一もれし微細とて懐の筆と辨とて人
 の場とありてそ男とて女とては

あつ附らうはれけ紐とまをんといあ向の印者い
そんあねとけやく諸便よんといそんり囃の
一字におとほあまてうる趣向し向作もよの紐より
ちて衣裳の紐すれつあて及りりも賤の持し印者
其のらけ類の印すありりりあう紐しあすおは
水と氣をいしてありけ人を紐さしたえぬ
知れ紐紐と氣をいしてんれ附心らしてそ向
月むつりく服よりあつよそ人と辨さてあれ
ぬ衣裳の借るるとしやて笑をより今言の
糸あそくにらり水あそこの糸あなるんといそ
向ららるる由の母あやと借し附らけ二句と
か向とゆきとてい印者の差ふとい附らけとあ

け人皇の世親も趣向といあ向の中はあつりて
向印らあ向のよといそやまらにお向と紐紐
何ときららよといあもき新ま作といそ
ま言ふといはあやといはれ向の印ああもは
通といあもといあもといあもは拵排ちりとい

知程 け二まといはれの日用りて印作とい知程と
ソい儒けとい知程といふ世論とい離附の二印
おらりあ向の程といはれもきとい新印の次印も
鯉のらこい鯛の漬焼といはまてい献し鯛のかえ
やまとい献といはれも借あん鱧いありといは
指まてはといはれも借あん鱧いありといは
一向も重りといはれも借あん鱧いありといは

あつ附ら

世

一、二汁を鮠の鱗をこぼしよんむ却ちのそに丹
も海方の邪心も曲断とせむこけの摸おろして
麩向のくそらとがくのこくそと一程の毒は二一
從諧明暗 祥林隨子にある和尚の坐禪の時と野
狐の妖怪とある方に一唱ととりぬる急は消失
とらと其のおおあく典座とあらやと其の例
の一唱ととりぬれぬ狐のくくくそあひくろく
お新のくろおあ一唱ととりぬるおの物膳と
おろく一狐を介ふあそくあし甲し入るおの徹と
未徹ありあれぬ凡衆とあそくあし甲し入るおの徹と
てまはちちとやきとく和尚の一唱いせ板と釘と
くおくこく典座の一唱いお帯と人とこく

心地あるにねし從諧の信不信とあそく一
之名 遺稿夜話よ之祿のたし女奥おの起りよ
喜此ね糸と撰りて湖南より武のよきとあ
お新の返書よ文書の例のあひかこく其の角
も凡衆とあそくこれたし他人の從論のめろ初
へ自己の從用の膳とくも例のあそく其の例の
起括あり走とく例の拍子あり今さら別名と
あそくあそく一唱と聲とくあそく其の初る百句
あそく二句の向くこりねりと和声よ余たとい
從諧よああひとよたれと一程の例とあそく
附余のよも不承ねとやまに難けのあそく
自己の先作とあそく今あそくあそくあそく

存く一匹のふゆとわさくむとさういひ我の眞人加
もかあやうしとふし持しん故水のほはあれし神家
よと條のれとさるれとら又刑のやと罪ゆか
しとありけおいふく拙子庵よとさく百世の
行人の遺誠さへて我に洋しけ後語の厲言と
ありの聲あとい所古のや用あはれ拙子とを親
のちういともあはれしああうらよ一けのなとと
て他人の能備し自己の能備とに我師の能備
と臨神とむとや神家の能備もあはれ
發句信 我師の常談よお向のよへ師もあはれ
所句の變化よ自在ちりよい故の在せよ十倍あ
むはらとら下のみさくくもちえの控えたと

て誹語の理なき所らさくあはれ今さら
年とことありよも人もせしよやあはれ
者向のよら故の在せよ能備してあはれ
情と失つらよあはれしとあはれ附向からし能備
ありて上よとりのよもさくい合さしゆては世の
ちえさ達よりん今の変化の能備やあはれあり
言よ能備の時世頼らんとさくよ一とあはれし能備
さくよの能備あはれ附向の能備もあはれし能備
月書もあはれし調の能備あはれし能備とあはれ
もあはれとらるにあはれし今能備よさく
今の能備さくよとそれとさくし能備よさく
の能備の能備のちうあはれしと向もさくよあはれ

馬の能備

ともあり物事の同と相つ中い居る藤の書物よ
 おちくるはの辨のきのさぬのこもふりい
 物へー上子の音句の邪へありてさすし
 こそ今のはちとてんこもかきも人のせうきれん
 詞の抑膚とるあひちり上子の細工論へん
 せよく音句のさるはとて仲つて虚言の言
 あれらちを風雅の者へありてのせよ音句の
 天下とさるものせぬへ附句の上ひらき事方化
 の位とありて物へ虚言の虚とありてさる
 けれとさるあんと音句も附句の上ひらき
 ありてかんのさる有るの虚といふは自然
 の位ありてたこと天今の改定とふく孔子

けれとさるあふありて七十二才のちけおれれ
 と我於^テ辞^ニ命^ニ則^ニ不能^ク〜おく音句のほま
 のあひらけ知る〜とたるとありて音句を
 一や〜と句もあ〜知る〜とた〜と句と〜と
 く〜と〜と〜と我と雖〜と〜と万代の
 現とたれとも道〜と字の信ある〜と〜と
 したるの系訓より音句のほまの所はと辨とい
 而かた〜猿の音とら〜一葉の月 其角
 壺 朝の音とら〜一葉の月 其角
 花の音とら〜猿の音とら〜一葉の月 其角
 さ〜と枯〜と〜と断腸の音とら〜一葉
 の月〜寂寥の音とら〜何やらあ〜とらあ

新編

十七

ちねん人とおふらうと云ふ句はなかり聖書の
 翻の地翻のこころして御書さうくはなれん
 七重聖書といふはなれんをいふ知の上は
 及らぬおと下の又なまふりまはしゆと
 のまらふおとあはれんをいふまはしゆと
 と信をていふのまはしゆは御書さうくは
 筆くまこと事あらうと云ふ御書のけり
 さうの本具の書とては御書のけり
 して其御書のけり入と云ふこと
 そ対し御書のけり御書のけり
 于あらうと云ふ御書のけり
 の御書のけり御書のけり

帝の御書のけり御書のけり
 さうと云ふこと御書のけり
 一道建立のえ祖あらうと云ふ御書のけり
 るもち他と云ふ御書のけり
 歳且と云ふ御書のけり
 の御書のけり御書のけり
 御書趣向 御書のけり御書のけり
 御書ありと云ふ御書のけり
 御書のけり御書のけり
 御書のけり御書のけり
 御書のけり御書のけり
 御書のけり御書のけり
 御書のけり御書のけり

書一とこれ子の詞の親切とよめりて矣^カ幸と
 ころりて文のよ名はありこそなり二か句のしに
 一子もち文の判りありありと我をあらわす
 ありとなく文教の用りて文より可^カ句の用とれ
 ころりて文質の備を新鶴は事よるなり
 拍子姿 送符夜話よあやとて世間の拍子いあら
 力にまのこよとてさうきて力の拍子いあらとて
 あへの拍子い人々をやりけ意の拍子よ天運
 とまるとつれも動静の二よありて動く不の拍子
 いまのやとて静る不の拍子いあらなり
 此の拍子とい才よ言語の働あらぬ詞の拍子
 よかる付いあらも波あと言ひて拍いぬ宗因は

拍

舞向より舞向まう一子一言も姿あり
 酒食の雑話よりて連音の拍いといもをこ
 一とせ伊勢の神以歌よりて足猿といの舞まに
 草の百韻の曲の節よりてて焼餅の二のりよ
 こころいこ子向あり波をを例の作あらぬ
 言と幕布はく一の拍子よとててておれ作よ
 舞いをむと階よりにたれとや例の姿ありと
 いらむまらぬ茶をの場とをあらぬ馬士のあや
 とあやとたれと此のまらぬのまらぬ
 詞のあやとてあやとあやとあやとあやとあやと
 とらとあやとあやとあやとあやとあやとあやと
 いらぬ句のちるあやと舞慶のこころいばよとたれ

あやとあやと

あやと

とつから一旬とあり 當付し博子の作を達と
世界の人の志あるも一とて其集と今もあられ
むとといふものほのほやある付おまの
おまらにけちやと白中文集とてさうをさうと
いふ病螿とてさうけ詞のありさる

言や弁の子やあゝとと
ちとちや替とらふとと
かくけ二句とてさうけ

て老あのみ事たもい
熟語とあゝぬらん
さうあんとしと句の
かくけ二句とてさうけ
て老あのみ事たもい
熟語とあゝぬらん
さうあんとしと句の

泊船集よ入るる
いそれの籬宵おち
と裁入の鑑とと

論語詩經 けい
論語の累文とて
先後抄の全文と
言と興觀群怨と
朱注とと見とと

○子曰由也女聞六言六蔽矣乎對曰
未也

乃孫下

抄云此章之佛胎而
了共就夫而之教誠也則作別章廢文之一法也

居吾語女好仁不好學其蔽也愚好知不好學其蔽也蕩好信不好學其蔽也賊抄云仁知信之三言者儒書云佛經云教誡之常也則不及例之為註要款

好直不好學其蔽也絞好勇不好學其蔽也亂好剛不好學其蔽也狂抄云直勇剛之三字

者此章之要文也左有者六所有好學之二字而可見子路一人之誠厚諸註者先仁知信而後直勇剛了則昨日之子游麼今日之子路麼成不替寺之談美而何以可分儒仙身矣哉等可知論語之先後也

小子何莫子夫詩抄云此限者全續前章而尤之二字者為行次乎乎小子者指子路詞而求語余麼如小子記之言則親切之平語也乎然則從公山弗擾至此章達者有下同一論之文勢也

章與由也之段者有讀一章二限下矣夫

詩可以興○朱曰感發志氣也抄云朱註者非詩經之註說也夫興與者詩之比興也詩者徒志之所之而可求也而遊也其詩者朱氏麼為註止乎五忘六義之賦比興哉

可以觀○朱曰考見得失也抄云朱註非詩經之用謂塵劫在花落葉而可觀念也本之變感懷万物之化與所未氏者自以觀感之二字令註論語之政刑止乎今悒為忘哉如何厥者不察其人之用字

可以群○朱曰和不流也抄云不和者詩經之註也不流與者朱氏之依言也是以所謂註者之塩梅了矣群與者万物之和同而可知凡雅之不隔貴賤止儒內者以之曰竟仁居武存者以之曰文和歷文和者必為子路之用厚

可以怨○朱曰然而不怨也抄云朱註麼至此段之不怨而見事直論語者也孰耶有不怨之意耶返以麼可悔者本朝流布之論語而朱喜集註之無以雅也乎此與者詞之哀動也抑口

信認詩經則世云抄子之定規也乎知

てそふと仁美とし礼未ともつるにきえ齊のやうに
とちりてはとがまふらんあむははむむ人そ
とありけ執を先後おし由と行の差ああるはれ
おの下に全文とくる一とあるは未の世に政のの上
の費と下にたたくあひ下と一金の賂とて百金の
上とがまむとまむとむとむとむとむとむとむと
へよとくうに大道廢有に美とくうとむとむと
まむと頭今と月しとむとむとむとむとむとむと
ぬうとくうに漢家のにんとむとむとむとむとむと
厲言とむとあひく天卜のきまよむとあつとあつと
かく横同と西とくうとくうとくうとくうとくうと
あつとけあし孔子の又刑解し繩之以刑是謂為

民設^レ刑^ト而^レ陷^レ之^トとくうとくうとくうとくうとくうと
實政^レ獲^レ政^トのきまむとくうとくうとくうとくうと
されと絶階の世にあり然れの中これ絶とまむと
せくしとくうのきんともむとくうとくうとくうと
物んともくうとくうとくうとくうとくうとくうと
それのけ式のくうとくうと世界の絶階とくうとくうと
は式のるむとくうとくうと其意はくうとくうとくうと
今覺古明 按まらたけ殿といそくたむとくうと
くうとありく今覺とくうとくうとくうとくうとくうと
くうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうと
一物とくうとくうと一切物とくうとくうとくうとくうと
くうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうと
くうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうと

のたあ

たあ

万葉もあましくあり和訓の通里名のみは梅の
條云降し梅あり漢に牡丹ありく花と二品の
あまけあましく名とさあ花の梅あましくはた
梅よりさるるあましく花座傳廿二式より
花の梅の附方ありく人の差ふるときは梅は
い好まのゆはるや秘をささるるあましく
▲花のより條云古式より八品の花あはし花より
いさく一品ありきさく花大餅花のおよりあ
まきにむさくいさくあましくある一それさ
まあましくあましくあましく油色傳梅およ
あましくあましく比真傳そよ本を竹のさ
はくさるるま梅より花あましくはたさるる

頃の花重のたると物倒のあつういあはる古式の
詔もあましくあましく▲指合去梅のより條云
指合よりあましくあましく治路の板子の
さあましく去梅よりあましく象物のあましく竹本鳥獸の
らあましく一巻のあましくあましくあましく古式
さあましく梅よりあましくあましくあましく自縛のあま
よりあましく一それ▲花八月のより條云花より
あましくあましく一月八月の配より月花と風雅の礼
式をたると節の例とさあましくさくさくさくさく
さくさく新とあましくさくさくさくさくさくさく
くい月花のあましくいさくさくさくさく
梅よりあましく一それと白馬のさくさくさくさくさく
自さくさく

鳥獸のさく

さく

ちるう地一對されんぬのれ此きらしてしこち
不ありくし心されと知んぬのゆゑあ人の心の川に流れ
てうれいふあひのるむもこころにたれ人の心はあ
らうしちるうあちりもたしこころの根のあらぬある日
へ額と敵とあひあけけよをのりとしこころに馴るぬ
例のや推るぬ馴るる人らあひもさああり果ての
今よあをうれく人莫不飲食也解能知味とする
飯袋子の漢といけ男ありたれと定保い庸人
と名にけく心不存慎終之規口不吐訓格之言
見十箇大而不知所務從物如流不知其所
執とよけ人ら知恵のやうきえおして流るぬ
あしとそと頓人とりくるこころ文よとけい百こころ

ては方連徳の向上いこころ遊藝とてけいよ
て心と其意書を益し若用あれし世界の用よまむ
こころを商人の例の大およこころと奉事する
例の所務とあむと賢者なる例の所執とあむ
たむと也家よあしこころと例の如儀とて可一物
の和南とあむとたれしゆらと世の偏よまむ
あむと曾子の月利のこころと為く不謀手交友
不信手傳不習手とよ男あしこころの人共と
こころのこころと離事と月とあむと解曠と目と
はるゆらこも能信の家此眼目通るる及はんこころと
あむとの幸も博学の都よゆらこよあむの文は
ゆらあむとこも能信の学よあむと博学の

の

多文といふは、その中にも、世にめづる用ゝとて返して中庸
 といふる、假し茶中、知を河を、しといふる、しといふる、し
 儒術も連ね、しといふる、しといふる、しといふる、し
 此費 梅も、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 の費といふ、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 あり、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 誹諧の歳目、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 喜、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 十八の切字、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 知、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 子、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 と切、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し

本に鶴鳴、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 か、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 の、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 韻字の傳授、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 字、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 宗近 建行の師、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 字、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 笛の、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 一、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 の十折、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し
 の被、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、しといふる、し

とありし或と民間の俗語とありしに五人厭を
も及り及上よあれども滅なす宗近のるは
かゝるを彼より一藝の上よあれやあよ
哲の能とあけり且も及りしをち能く子夏
いかにわすし何あしう先生よはるありや
るに類回信而不能及子夏敏而不能論子
路勇而不能怯子張在而不能同弟也子有
之有以易吾弗與也此其所以事吾而弗戴
也一大哉孔子の宗近する情くましく
一論一藝とありしとあるを高の次
いかに辨の目ともあつらへし子夏を録の
やうにありし軍のたうあつらへし

賢のつれし丹有一馬のかけいといとあつらへし
先一多一藝の可一用とありし例の二つは
あありきといひ他諸一もあつらへし
よめあんと二れめ宗近とあつらへし
按一宗近の二つは神録とあつらへし
一宗の和尙とらと詞あり

例、一節一節と十論の書法より一和對より
節あれし言ふ一道のさ地きく一れは
るのあつらへし言ふとやとあつらへし
偏擔とあつらへし人のあつらへし
論語もそ人とさして色厲而内在其猶穿
窬之次也一言し行よのい

論語

七

教化秘す 白馬教誡訓よびし 儒佛の教と
 子ん内秘外理の三相ありて 新加孔子も虚
 言をた知あうたれん虚言してとんと言あひ
 一たのそ地と説のいゆ今も言諾の類いとい
 てたれん言いといふいふいとおよまはしくて
 ねよ虚ても言てもあうらうし 物とし悟り我と
 ちとるるもあうらうし 儒佛の二方是れ人て作ら
 ざるもあうと人と迷うとるあれん我とと業の
 眇眩といつりたれし 新加孔子の智慧あれん
 守んもも嘘^{ウソ}と信んといふとさうし 子疑一決の附
 あうしんあた教化の秘するもあうとす人のあう
 ありて教のうん 兼通せし方あうとさうし人の

ちるといふ速あうしと大悟といひ悟てはし
 と放下といふ一倒二正の言ういふ一倒の言
 と何とる一といふむし 大木の常禪所とらうと
 即ん即佛の言下にたうらう 非心非佛の釣詭
 やしといふ 這老漢惑^{ウツ}亂^{ウツ}人^{ウツ}未^{ウツ}有^{ウツ}了^{ウツ}目^{ウツ}と^{ウツ} 新加
 の馬祖と老毫といふと 即んもあむ非心
 あうと虚ても言てもあうらうし 馬祖の内
 心と看破といふあり所道もはまを此の眼
 あれん梅子熟といふし ちち花のまあうけ辨
 能清一入のそ地といふ言達歌の風流といひ
 月より花をあうと花より月といふも 此の所傳
 とさうといふと十捧の法伝といふと

負字式の如くいれとあげてひそくに新の差
不と辨とて去嫌とて子象物めありて竹本
もも歎いふなりて然賦言服のありて
る辨用の差ふあり支射とて詞の辨命あり
或と名取物各と同字別吟の取はるべき
筆法の二より転向し句作との差ふとて用
と不用とのる段とらぐ一四式のそく文字を
とるむへうとてそく一梅樞と柳腰のそく
の牛と心の鹿馬のそくも居所と筆の家名
のそくもとてそく一打懸もそくも
て用控とてたれと高下とてそくも
たれと湯水法の差ふとて詞の牛と目とたれ

とも心鹿馬とてるの湯水とてそくも
る転向とて用ありと句作とて用ありと
たれと一指をとりてとてその同字とたれ
してとてとの活潑とてそくも
たあり数字と送字も四式より轉一と
一と一と心鹿馬のそくも活潑の振子の耳から
二句下とて決一とてそくも
物名も録麻と麻のそくも屏風と松風のそく
偏り書とれ字形とて一真名も假名も差ふ
あり、附向も打懸も用控の類ありはれと
しひひも假名もやうけとてそくも
しひひも假名も假名もかたねといふ論あり

町屋の在る通とあるくはうきしりた

裏一頃 一巻の式同し百韻の裏一頃の句もは
 等しうしてはやく我句と附(まこと主あいつり
 とく小儀式の存より花と中人へらむむゆへ
 花の作名へあひよりのありまら花とら
 けし花の形と人よゆつる意せられし主
 とまことれんをまらむらむれぬれは
 宗匠居間 一巻の式同し能儀の文席へまら
 善海よりより二句之間ちり論あり一箇あり
 屏風と陰とらりる宗匠も連る威儀も論と
 くとく初めの方へ代句として一詞とまら附
 當方の二巻と新古と論まら附合のまら此

やまらあから郷養應の波中のとれらるるめ

五條式

- 一 諸礼停止
- 一 小語僅あり
- 一 出合遠近
- 一 一句一直
- 一 月花一句

ちり四式と増減して身享式の條月ありけりは十句
 の二條あり自句二連とし二連とも連るもの多かり
 へきあり一方同く子句の尾よりかきし十百和とてあけ
 一和と十和の差ありして一巻くは百韻の式せまら
 一和と一巻とまら嫌の用終るまら一はて四式の忠右

遠近とつた但原先とよ書あれと先後の内は
結し時とあれ遠近のそとあると一二月花の二條
も四式の季月花とあれと書と八あねを内成
るも乃り一季と一月の句とつたも句つたも
辭とへもと存と決して可ちる一子向万句の一
程とつた月花の可指も分偏ちた百約の二たと
もは或い例のやとよ方にしりかくはね不真の
時とあんとあねと一程のけとあねむねた式とほ
りなく一巻の控と古式の害ちりもあねるに

傳田

昇仙月 建福秘説と書團の句評の下に祖
の遺訓とあけり秋をよに月おの詠と昇仙

と二花二月のつたありと訓の大略とむつり
るり伝のけり又す約の配りして二花二月の控
あれと大つと二花二月もあると一とあると
書と冬の季向と又句月日月とて七句同
ちり秋とけり重裏の七句八句とて又く月秋
とひねり控もむつり花おの秋も配り
たりと書とよ書向と表と雜ときり一句
ありりりり秋を季の季向とて花の季も遠
りね折ひりあそりりりる冬の月とて
と書とねりも冬の月とてあそりりりり
の季向も折あそりり折ひりり七句同と例の
子伝の季とて決して是名の月とて

書あれども取らざるあるは、柱へさすや、おの
がら、漢土の字書とるるの音、勅との通
用あれ、上は用ゆり、れとのおる中、用ゆり、元
へのおる下は用ゆり、うらむ、満ちて、かきけ
ると、まらり、やうらり、とまら、假名、は、け
の、大、り、^母と、ふ、り、も、ある、一、と、た、け、書、(大和詞
の、本、控、う、て、初、子、菴、の、秘、持、ち、り、
之、書、) 繪、本、お、し、お、お、醋、吸、の、係、の、釈、文、あり、れ、お
へ、酸、い、と、し、釈、出、ら、井、つ、い、い、老、子、へ、書、い、ら、
る、い、ら、直、と、方、後、し、異、見、し、此、之、説、と、や、漢、上
大、道、の、妙、用、ち、る、な、ら、ら、^{虚、ろ、あ、り、て、實、ろ、あ、り、}
井、酸、吾、辛、に、あ、り、と、ら、と、を、ら、と、く、え、あ、ら、

例にまぐの二節と、か、く、の、あ、に、末、世、の、は、右、に
く、り、く、ら、儒、内、姓、善、村、惡、の、ゆ、成、も、佛、の、ゆ、
自、力、他、力、の、談、論、も、万、に、一、例、の、二、段、と、ま、り、自、己
一、分、の、脈、と、ま、り、と、ま、り、の、お、つ、り、力、お、り、や、釈、迦
も、れ、子、も、ん、の、ゆ、成、あ、ん、ま、ら、れ、い、能、階、の、一、節
と、ま、り、詩、歌、連、言、れ、ら、ゆ、ま、り、^{道、上、建、立}
の、ま、り、地、あり、と、ま、り、何、と、虚、ろ、^{て、談、笑、と、}、
や、何、と、ま、り、^{て、過、當、と、ま、り、}、^{ま、り、}漢、の、武、帝、
百、世、の、め、る、な、ら、^{東、方、朝、も、あ、り、れ、の、ま、り、}
と、大、名、の、知、ら、し、い、れ、お、の、ま、り、^{詔、諫、}
と、ま、り、^{今、の、有、力、の、禮、那、も、り、}、^{一、道、}
建、立、の、ゆ、成、と、ま、り、^{鞠、や、揚、弓、の、九、段、一、得、ち、}

もろく新島の誹語とくせし温厲も和の節も
酸のも耳の隣の談美もすれく今より一節
の要文と辯者の骨のり控りよ一
大要文 按るるに春秋の二對と十論一節の内訖
といひ孔子の十論のこく春秋の徳義
と用ふれし七知我と四非我の會教とはけく
ひそくに世間の機嫌と空想の達士の禪心十論
のこく古来の氏式と破あつてその所の標伽と
二祖のたつていそぐ心下の血脈とをさす
儒佛の秘訣とて多し要と皆の表裏と其
とらんや畢竟して對の意と親と子の
荏弱とこころとていそぐ心下の血脈とをさす

「思案のあやうくある」けぬ十論も上
條の要文とあれ論者と對と文に訣ひ
評者と對と大要文といひ辯者と對と
老母親切といふ一密のこころ才之段あり
變化撮 白馬教誡訓の變化とはは凡はあり
うこく 虚の要文とあれ文とて撮とて
變あれん虚とて撮とては伊尹といひ
比干といひ上左の要人々天理とて管仲と
はるゝて撮とれをて伍胥といひて撮
とまよふて撮とて變通の用とあるは
けぬ儒佛の連綿もその中を對の要とて通
てはて式とていそぐ心下の血脈とをさす

の要文

四六

け道論師 遺稿を話しむしより儒書に仲孫也
内人の撰集よりなりて唐の杜中書が地也
釈迦の十才も孔子の十哲といひて疑向といひ
て我と既して一人と利をむしむるの位ありて
顔も又あけさくれりてむむして字面と流るる
よそよりその時の要より通とよき言きく我好の地梅
ありしより後名の大よりいふ釈の虚活とや
さくお乱の場をよむるを儒書に宣解とや
偏居の親にちりて一字録の世界の善
西の復も互のくのおおれ釈迦の孫も
孔子の書も西のいふいふいふいふいふいふ
しおしるる用あることとある一字子なる

例の二取ちりとてしるるふくのも書にほり
い説よりよ見ふるやとてあんとはらて撰集
の疑りもいと仰孫の釈そののちやいやりて
太子の托胎も今日の人よりとてあれん論さ
靡也のゆはまうて例に撰るのちあ道
あしとや儒書より論孟の虚言ありやう一の
記者達し自撰化撰の論あれし言は一貫抄
の説よりいふ論者出れ孔子壁中より言論
と齊論より篇の増減へ傳字の人を用る補
て論詔とて前自撰とてあしとあし七十
二弟の對向し夫子の要通可方あれし有子
曾子と述りしより子游子其れ文字よ

此のりて言彼の文とさむる時おぬ一解を才
 一の類回とて信而不能及とて師行の教誡の
 秘よりして詞の釘とておせまふは論語の
 虚を又自在らるる有曾問其復の何とて
 ちて及や篇章の断続とるるは或と一章二章と
 合とてとて世の諷諫とぬくやとるおあり或と
 之章四章とけりて子者有の諷諭といはるる
 不あり或と子回へ衍文あり一段と二章あり
 不しありなれとをたおの論とさるる陽語も
 断続も文章のほりて春秋と孟子の筆格
 ありとや或と文章とも教誡とも一向とて起の
 ありかきも不もおとて六章と七章とあるをれ

と和漢の注者達とて皆のめくるおちらもいあり
 ちかた併ふの藤字より篇章の次第と失る
 う他とて時を用うてけ時の不用をん夫子
 之文章可得而論夫子之性與天道不可得而
 論とてあしはるるあるんをん一部の起結とい
 七二篇の断続といひ同向異各の要通への科
 も十哲もあふおあふ論語とれ子の有撰と
 決とて一とるる孟子とておとて一と撰と
 といへるやちとて一と撰といへる一と撰の
 對向とて居るおぬとて論語古義とておぬ
 我々の儒家の抄ある編語とて孟子とて
 て孟子のりて孟子道とてとて一と撰とて一と撰の

人より高めてい文章の優劣を遠くして改論
して時の急用をわけて儒者といふ孔子孟の書
一この箇の眼力ありし一かまや白馬の
文教も文章と今日の世に有用なもので教
誡たる世の有用とてあはれ説人とて扱
るはと流るるに聴者もそれとて心算する
記者のたよりいれしもの知不足も我も
小人も扱ふ事されい世に有用なきものあはれ
ともいふやいお念の非と後念よりあつていお
自己とあつていおと大い世もい世もい
過ちといふと孟子のいふとて孟子のいふと
論語一孟子の詞ちんといふて撰者の意

まゝを孔子の周制とていふは
宣のいふは孔子の周制とていふは
くらの過ちありて自撰とて改のいふは孟子の
韓氏も評のいふとて万幸公孫の塩梅と加て例
の似而非ちんといふと決して他撰といふといふ
大いねれ孟の勝者と自他の撰論といふといふ
その一末世の儒書も詩文も程子の文章といふ
疑りくまうて世のいふとて古文のいふといふ
の持来りといふとて味もなるて板りて我おの
子名のいふといふといふといふといふといふ
といふといふといふといふといふといふといふ
といふといふといふといふといふといふといふ
といふといふといふといふといふといふといふ

下

とありてその下「書らまゝく古人と信」とい
言説しやといふるはまのいふやんは我々の非
書といふて中比の儒仲名も古宗新宗の視所
の書も歌書軍書のたゞこゝちの源氏に言
の十帖も四孝抄詔と名ぬゝあむとや書抄
いふ文よりいふ源氏と兼花とあむと詞のた
も上之觸めよてもるも軍書とてよふと今や
甲陽軍鑑のてまゝと例は高坂多美辨より信
玄といふるよりてカト電お軍のた居もいふや
いふて天下の七雄といふれとあむや書は不
自在ある返ましくいふる一まゝと撰者のた
とてふとありといふ論とていふと撰者のた

とありて新家の泊船といふ集はれぬの論
いふてねともその撰者の藤子よりいふ
者向ふありていふるはあむの徳義とい
はれ一巻二巻の者向ともいふとあむを
二と平向もあむいふていふとあむを
遺集といふとあむいふていふとあむを
いふるよりて四馬もいふていふとあむを
あむりていふの撰論と建立の遠きといふ道
百世の良書とあむいふていふとあむを
いふ訓の編集といふていふとあむを
木録の喩のあむをいふていふとあむを
いふるよりていふに文章の起結といふ

百集

一

俳諧

儒佛の二教とむじとひくことと詠言の微中
とと諷笑の諷諫とるまの

于時享保己歳之月中院

書林

京寺町押小路橘屋

野田治兵衛



SHODO-SHOTE
KANDA TOKYO

